

〈持続〉の力

ベルクソン『時間と自由』の切り開く新地平

平井靖史・藤田尚志 編

アレッサンドラ・カンポ（濱田明日郎・木山裕登訳）

三宅岳史

合田正人

ソーニヤ・デッペ（木山裕登訳）

平井靖史

近藤和敬

エマニュエル・ピカヴェ（田村康貴訳）

藤田尚志

村山達也

中原真祐子

天野恵美理

パリー・ディントン（持地秀紀訳）

セバスチャン・ミラヴェット／エリー・デューリング／永野拓也

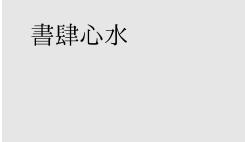
アリア・アル＝サジ（平賀裕貴訳）

檜垣立哉

安孫子信

杉村靖彦

シモン・エベルソルト



書肆心水

カバーデザイン 伴野亜希子

はしがき

2007年に立ち上がった Project Bergson in Japan (PBJ)¹⁾ は、国際的かつ学際的な研究体制の下で、ベルクソンの四つの主著を四期にわたって、すなわち、第 I 期（2007-09年）『創造的進化』、第 II 期（2011-13年）『道徳と宗教の二つの源泉』（『二源泉』）、第 III 期（2015-17）『物質と記憶』、第 IV 期（2019-22年）『意識に直接与えられたものについての試論』（『試論』）の順番で、読み直す作業を行っていった。ほぼ毎年のように国際研究集会を実施し、その報告集もすでに8冊刊行している。本書は、PBJ の15年にわたるここまで活動の締めくくりとして、2022年に開催した『試論』をめぐるシンポジウム In Search of Time and Free Will の報告集である。4日間のシンポジウムでの全発表に、先行する討議の記録を加えた計18編を収めている。

こうして、PBJ のここまで活動は、ベルクソンの最初の主著『試論』に戻り、その持つポテンシャルを探る試みで、ひとまず締めくくられた。これは一見して、ベルクソンの思想の歩みに逆行したこと見える。しかし、それはベルクソンの意志に適ったものであると考えている。PBJ のまでの活動は前半（第 I 期・第 II 期）と、後半（第 III 期・第 IV 期）に分かれるが、事実、前半が扱ったのはベルクソンの後半の二著作であり、後半が扱ったのはベルクソンの前半の二著作というように逆行していた。加えて、以下の平井靖史の「序論」が詳述するように、前半と後半とでは、方法的にも大きな変化が生じていた。国際的かつ学際的というのが一貫した研究体制だったとして、PBJ の前半では国際性に重点が置かれたが、PBJ の後半では自然学者たちとの協働という学際性に重きが置かれていた。共同研究での共通言語も、前半は仏語が中心だったのが、後半は英語が中心になっていった。前半と後半での PBJ のこのような展開は、現代の課題に応えてベルクソンを再読していく、しかもそれをベルクソンの真意に適って行っていくということの結果であったと考えている。

PBJ が立ち上がった2007年は、1989年のベルリンの壁崩壊以降、拡大を続けたヨーロッパ連合（EU）が、そのピークともいえる第5次の拡大を完結した年である。その間、2003年には、教育部門で、国境の縛りを破るエラスムス・ムンドゥス計画も開始されている。PBJ がベルクソン研究を立ち上げるのに際して強く「国際協働」を掲げたのも、ヨーロッパにおけるこのような〈開く〉気運に押されてのことであった。しかし、「都市国家の城壁を突破する」という、この「生のエランの方向」²⁾ は維持されなかった。2016年に

目 次 〈持続〉の力

はしがき	安孫子信	5
序 論	平井靖史	15
本書の位置付け	15		
拡張ベルクソン主義の変容	16		
『時間と自由』はどのような書物か（本書第1部～第3部）	17		
『時間と自由』からのさまざまな展開（本書第4部～第6部）	20		
第IV期PBJのその他の活動主軸	22		
要旨集		27
第1部 強度とリズム	27		
第2部 時間と空間	27		
第3部 人格と自由	28		
第4部 『時間と自由』以降の展開	29		
第5部 持続概念の社会論的展開	29		
第6部 持続概念の日本的展開	30		

第1部 強度とリズム

1-1

強度的な大きさ——それは撞着語法か、必然の謂いか
——直接的経験のパラドックスに対峙するベルクソンの高次経験論

.....	アレッサン德拉・カンポ（濱田明日郎・木山裕登訳）	32
1. 直接的経験のパラドックス	32	
2. 『時間と自由』におけるベルクソンの強度的な大きさに対する批判	37	
3. 『時間と自由』における強度についてのベルクソンの曖昧さ	42	
4. 『時間と自由』以降のベルクソンの進化／革命	46	
5. 直接的経験のパラドックスに対するベルクソンの解決策	51	
6. 強度的な大きさという優美な計略	56	

1-2

強度概念をめぐる論争とその背景
——アンリ・ベルクソンとジュール・タンヌリ

序	64
1. 強度概念をめぐる論争	64
2. タンヌリの思想とその背景	70

3. 考 察 73

結 論 75

1-3

ベルクソンの詩法 合田正人 78

1. ベルクソンにおけるリズムの不在? 78

2. ベルクソンのテキストにおけるリズムの言及 79

3. ルクレティウスの詩学 79

4. 「礼節」におけるリズムと拍子 81

5. 聖アウグスティヌスの『デ・ムシカ』 82

6. 聖アウグスティヌスからプロティノスへ 83

7. ラヴェッソン——リズムの哲学者? 85

8. 断続性の哲学——ルヌヴィエ対ビシャ、ベルクソン対ルヌヴィエ 86

9. リズムと持続——人間的経験の微分的条件 88

10. 震動からリズムへ、リズムから震動へ 89

第2部 時間と空間

2-1

時制と時間的延長を結合する

——(分析的な)時間形而上学の諸問題を克服するにあたってベルクソンの「質的多様性」が持つポテンシャル ソニヤ・デッペ(木山裕登訳) 94

導 入 94

1. 繼起を経験する——時制と延長 95

2. 繼起の分析(時間の経験と形而上学における)——時制 v.s. 延長 96

3. 質的多様性——時制を含んだ現在内部での延長 99

4. 質的多様性と形而上学? 102

5. 『時間と自由』における、時制を含みかつ非延長的である外的領域 103

6. 連続性の欠如 105

結 論 107

2-2

マクタガート vs. ベルクソン——時制とアスペクトの時間論的射程

..... 平井靖史 111

1. 先行研究 111

2. マクタガート 1908 の議論 113

3. マクタガート的立論の諸前提 115

4. 現代言語学におけるアスペクトと時制 118

5. ベルクソンとアスペクト時間哲学 120

2-3

初期ベルクソンにおける数学と空間 近藤和敬 131

1. 問題の設定——ベルクソンの哲学における数学の役割 131
2. 「数学とは空間の観念である」 132
3. ベルクソンの数学論を説明しなおす 139
4. ベルクソンの「持続」と「空間」 142

第3部 人格と自由

3-1

『試論』における意思決定と選択の人工的次元

..... エマニュエル・ピカヴェ（田村康貴訳） 148

1. はじめに 148
2. 空間的表象と選択の経験 148
3. 意思決定における自由の表現主義的な説明は、科学技術による意思決定支援の時代においても通用するのだろうか 151
4. 意思決定と人工的装置としての諸機関——個人の運命について考える 153
5. おわりに 157

3-2

人格性について——分析哲学的自己論とベルクソンの表現的自我

..... 藤田尚志 160

1. 分析哲学的自己論の概要——物語的自己と現象的自己 160
 2. ベルクソン的アプローチ 164
- 結論に代えて——『二源泉』における静的人格のいくつかの特徴について 167

3-3

芸術作品としての自由行為

——ベルクソンの自由論と19世紀西欧の芸術論 村山達也 172

1. 自由行為と芸術作品とのアナロジー 172
2. 予備的分析 173
3. アナロジーの分析 175
4. 19世紀西欧の芸術論とベルクソン 181
5. 結論 185

第4部 『時間と自由』以降の展開

4-1

自由行為と笑い——ベルクソンの『人間嫌い』解釈から考える

中原真祐子 190

はじめに 190

1. 『直接事件』に登場するアルセスト 191

2. 戯曲『人間嫌い』のアルセスト 193

3. 『笑い』における喜劇論 194

4. 葛藤しつづける人——『笑い』におけるアルセスト（1） 196

5. 誠実であっても笑われる人——『笑い』におけるアルセスト（2） 199

おわりに 201

4-2

ベルクソン記憶論における精神の地位とその変容 天野恵美理 204

はじめに 204

1. 問題の所在 205

2. 二種類の記憶力と運動図式 207

3. 第三章の記憶論における二種類の記憶力の連携 209

4. MM 後の記憶論 214

おわりに 216

4-3

ベルクソンと脳半球 バリー・デイントン（持地秀紀訳） 218

1. 何故、分離脳なのか 219

2. 人間の脳半球 221

3. ベルクソンとマギルクリスト 222

4. 結びにかえて、問題と考察 230

補論——マギルクリストによる左脳半球／右脳半球の 20 の主な相違点 233

4-4

ベルクソンにおける純粹記憶の諸平面の共存をめぐって

..... S. ミラヴェット、E. デューリング、永野拓也（永野拓也訳） 237

第5部 持続概念の社会論的展開

5-1

ベルクソンと共に〈植民地的持続〉を考える

..... アリア・アルニサジ（平賀裕貴訳） 264

1. はじめに——植民地主義を時間において理解する 264

2. ベルクソンの持続 267

3. 被植民者たちの生の持続から植民地的持続へ 270

5-2

ベルクソンとフェミニズム——エリザベス・グロスの視点より

..... 檜垣立哉 287

はじめに 287

1. 新唯物論的転回とフェミニズム 288

2. グロスとバトラー 289

3. 精神分析に依拠しない生の哲学の復権へ 290

4. グロスのベルクソン 292

5. 生命の物質性とベルクソン 293

6. ジェンダー論と自由論 295

まとめ 296

5-3

ベルクソンの未完の社会学 安孫子信 298

1. コント社会学と科学史 298

2. コントによるパスカル科学観の解釈（1）——進歩 299

3. コントによるパスカル科学観の解釈（2）——規約 300

4. コントによるパスカル科学観の解釈（3）——実証諸科学 301

5. ベルクソンの科学観 303

6. コントの「諸科学の分類」とベルクソン 305

7. 『二源泉』末尾が語る「諸科学の分類」 306

8. 戦争の問題 306

9. 戦争と「科学の進歩」 307

10. 「諸科学の分類」と「閉じた社会」 308

11. 「諸科学の分類」と「開いた社会」 310

第6部 持続概念の日本の展開

6-1

「純粹持続」を京都学派に移植する——西谷啓治の場合 杉村靖彦 314

1. 問題の所在 314
2. シェリングとベルクソン——絶対的觀念論と徹底的經驗論の相互貫入 316
- 3.『試論』の核としての「自由行為」——ポストシェリング的フィヒテとしてのベルクソン 318
- 4.「純粹持続の純化」の徹底——「直ちに可能が直接に現実に推移する処」 319
- 5.「生ける花」への帰還——全き「忘却」において「物」は物自身として現れる 321
- 6.「根柢深く下された切断」——新たなる開けに向けて 325

6-2

「我々は一人で持続するのではない」

——ベルクソンと九鬼における偶然性 シモン・エベルソルト 328

1. ベルクソンの偶然性批判 328
2. 偶然性、可能性、必然性（ないし同一律）の関係性 329
3. 九鬼における偶然性の時間空間性 330
4. 邂逅そのものの創造性 331
5. 邂逅現象への様相概念の現象学的還元 332
6. 同時性 334
7. 持続の根源的な契機としての邂逅の現在性——「非連續の連續」 336
8. 持続の根源的な契機としての邂逅の現在性——「永遠の今」 338
- むすびにかえて——回帰による更新としての「伝統」 339

プロジェクトの“持続”とは何か（あとがきに代えて） 藤田尚志 342

PBJ活動記録（2007.4-2024.3） 藤田尚志 347

人名索引 357

事項索引 362

序　論

平井靖史

本書は、PBJ (Project Bergson in Japan) の主催で2022年11月に開催された国際シンポジウムを元にしたものである。In Search of Time and Free Will と題された¹⁾ 同イベントは、パンデミックの影響下、全面オンラインで四日間にわたり開催された。本書は、ベルクソンの『時間と自由』を起点として交わされた議論の軌跡を18の章にわたり辿り直す。

「PBJ」という名の持続する活動体がある。上記のイベントは、その「第IV期」の活動に含まれる²⁾。発足の経緯やこれまでの活動の詳細については、安孫子による「はしがき」、藤田による「プロジェクトの“持続”とは何か」、「PBJ活動記録」をご覧いただくとして、ここでは本論集の成立に関わる範囲でこの第IV期に至る経緯を振り返っておこう。

本書の位置付け

フランスの哲学学者アンリ・ベルクソン（1859-1941）は、「持続 *durée*」と呼ばれる独自の時間概念を軸に、個人・生命・社会の異なるスケールの諸問題に対して、一貫して斬新な切り口から探究を行った人物として知られる。PBJは、その哲学の体系的な再吟味を行う通時的活動体である。その第IV期が主題としたのは、そのベルクソンの博士論文にして第一著作である『意識に直接与えられたものについての試論』(*Essai sur les données immédiates de la conscience*, 1889) である。国内では『時間と自由』、『試論』、『直接与件』などさまざまな別称でも呼ばれるが、この序論では『時間と自由』を用いる（本書全体ではあえて統一していない）。

本書が『時間と自由』を軸に編まれたことには、以下の三つの重要な意味がある。

第一に、主要四著作のPBJによる「総合的研究」がこれで一巡する点³⁾。2007年に『創造的進化』(1907) の刊行百周年を機にその第I期の幕を開けた本プロジェクトは、2011年からの第II期で『道徳と宗教の二源泉』(1932)、2015年からの第III期で『物質と記憶』(1896)、そして2019年からの第IV期で『時間と自由』(1889) をそれぞれ扱った。ベルクソンは他にも著作があるが、以上の四冊がその代表作であることに異論はない。その意味で、活

動は一つの大周期を画することになる。

第二に、最初の著作としての意義。上述の総合的研究の実績が示してきたように、ベルクソン哲学の現代的射程は底知れぬ広がりと深さを秘めている。その土台であり屋台骨となっているのが、彼独自の時間概念である「持続 *durée*」である。すべての革新はこの概念に始まったといって過言ではない。それが開陳されたのが『時間と自由』なのである。もちろん、その後に展開される彼の哲学が全てここに含まれているというのは、「回顧的錯覚」の誹りを免れまい。だが、この後で見届けるように、予見不可能な枝を大きく伸ばしながら読む者の概念的地形そのものを震撼・変形させるその哲学的躍動は、ページの下で、今なお暴れ回っている。

第三に、PBJ 自体の方法論的成熟。そもそも単一学者についてのここまで持続的で組織的な研究そのものが前例を見ないものであるから、PBJ の活動はつねに同時に、その方法論的模索と一体である。第 IV 期においても、われわれは、第 III 期までの成果と反省を踏まえつつ、その活動形態を変容させることとなった。この点について少し詳しく説明する。

拡張ベルクソン主義の変容

第 I 期・第 II 期を通じて強固な国際的ネットワークを構築した PBJ は、『物質と記憶』を扱う第 III 期に大きな方法論的冒険に踏み出した。「**拡張ベルクソン主義**」の名で国内でもその名が知られことになったその企図は、以下の三元的アプローチの複合からなる。

- (a) 持続概念の歴史的形成とその後の世界的な受容を跡づける思想史的アプローチ
- (b) 諸科学との対話の観点から理論的射程を検証するアプローチ
- (c) 分析哲学の手法を取り入れた概念的解明を試みるアプローチ

伝統的研究手法が (a) だとすれば、同時に (b) (c) という二方向へと領域を拡大させたことになる。分析哲学や人文系諸分野のみならず、認知科学・精神医学・人工知能・ロボティクスなど、文理を超えた対話を推し進めた第 III 期の成果は、国内では書肆心水から『解剖』シリーズと称される三部作⁴⁾として、海外では Bloomsbury から *Bergson's Scientific Metaphysics : Matter and Memory Today*⁵⁾ として公刊されている。通俗的ベルクソン像を一変させるインパクトを示したこれらの出版を通じて、ベルクソン哲学の現代的な有効性が広く再認識され、豊かな横断的研究が次々と芽吹いてきている。この方向性は海外でも大きく評価され、各種の招待講演（PBJ-IV-19：詳細は巻末の活動記録を参照）や論集・雑誌特集号に結実し、複数のテーマで

国際的連携が進んでいる。

こうした状況の変化は、第IV期にさらなる活動スタイルのシフトを促した。第III期までは、各年度に、三日規模の国際シンポジウムを開催してきた。東京・大阪・京都・福岡など大都市での対面型イベントは、旗揚げとして衆目を集め、大きな方向性を打ち出せるメリットはあるが、個別の論点をより専門的に掘り下げるのには必ずしも最適とは言えない。すでに一定の認知と方法的確信を得たわれわれは、第IV期の活動にあたり、同様の三元的拡張ベルクソン主義と最終年度の大型シンポジウムは維持しつつも、普段の活動実装については、これをより機動性の高いスタイルに変更したのである。これから見していくように、『試論』から伸びる問題の樹形図は、驚くべき発散と緊張の力で絡み合っている。そして、その節々は、リアルタイムの共同研究活動のまさにただなかで（未完了相のもとで）、その生々しい姿を露呈するのである。われわれは機を捉えては、ワークショップ、合評会、対談など多様な形でゲリラ的に活動した。パンデミックがもたらした技術的利便を活かしつつも、対面での柔軟で繊細なコミュニケーションをすっかり手放すことはしなかつた。無論、実らなかった着想も数多い。新たな思考線は、揺んだかと思えば隠れてしまう。だが結果として、PBJ 第IV期は、2019年から2023年度末までに、23件にも及ぶイベントを実現させたのである⁶⁾。

これらのミクロな拡散的活動と並行して、全体会議を通じてじっくり準備を進めてきたのが、本書の元となった最終年度シンポジウムである。様々な国・世代・専門領域の混成のもと、規模を拡張し全四日間の日程で執り行った。だから、これらの諸論考だけでもその哲学的広がりは十分に見届けていただけるはずである。だがわれわれとしては、それさえも、『時間と自由』が映し出す茫漠たる樹影の一断面にすぎないことを、実感を込めて強調しておかねばならない。大小問わずあらん限りの活動形態を駆使してわれわれが追いかけてきた問題群の姿は、不格好で未成熟かもしれないが、だからこそ艶かしい手触りに満ちている。この序論では、そのことも併せ記しておきたい。それは本書の論考たちを、それを取り巻く可変的な思想的地形の中で浮かび上がらせることになるはずである。われわれにとって『時間と自由』とは、そんな冒險が繰り広げられたフィールドの名なのである。

『時間と自由』はどのような書物か（本書第1部～第3部）

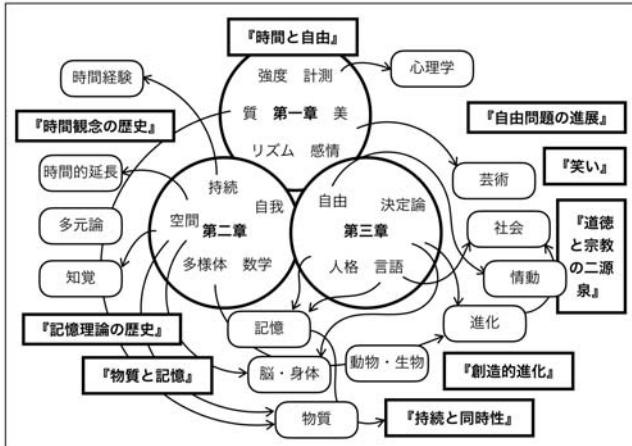
『時間と自由』は三章構成である。「心理状態の強度について」と題された第一章では、心的状態（感覚や感情）は量的に計測可能かという観点から、「強度」の問題が扱われる。ベルクソンはこれを質と量の混同に帰着させるが、カンポ（本書1-1：以下敬称略、収録論文の章は算用数字で示す）はその妥当性を再吟味する。三宅（1-2）は、ジュール・タンヌリを含む当時の人物

相関図のうちに、この問題が張り巡らす広大な根の相貌を炙り出す。二人の白熱した議論は日を改めて「延長戦」へと及んだ。その成果が収録論文である。両者が揃って指摘するように、『時間と自由』での苛烈な批判は、『物質と記憶』以降で採用される「緊張」度——生の強度を示す——といかに整合するのか。この問い合わせさらなる問い合わせを連鎖的に惹起する。

第一章には、ベルクソンが生涯にわたってこだわることになる哲学素が登場する。「リズム」である。合田（1-3）が示すように、ベルクソンにおいてリズムは、ルクレティウスをはじめ豊かな哲学的鳴動を伴いながら、持続を単なる不定の流動から差異化する重要な契機であり続ける。フェヒナーの精神物理学との対決を通じて描き出される「心を測る」ことの問題性は、現代の心理学者たちにも深く反響する。フェヒナー研究⁷⁾で知られるドイツ文学者の福元圭太、認知科学者として最新の精神物理学を活用する本吉勇、そしてベルクソン研究者の藤田によるワークショップ（PBJ-IV-17）はこの論点を掘り下げた。前後して、澤幸祐率いる心理学者のグループとの間で「計測」をめぐる一連の意見交換を行っている。

第二章「意識状態の多様性について——持続の観念」では、その名通り「持続」が、二つの「多様体」の区別とともに導入される。「時間経験の哲学」の第一人者であるデイントンが第 III 期以降の PBJ の大きな柱となったことが証示するように⁸⁾、持続が、まずはわれわれの現在の主観的時間、いわゆる「時間経験」に位置付けられるのは妥当である。他方、マクタガートに端を発する分析系時間論では、「時間それ自体」が「時制」を持つかが争点となる。しかしこの二つの領域は切り離されたままでは済まない。この問い合わせ迫るのがデッペ（2-1）である。デカルト的な「延長」と区別するべく「時間的」という修飾をつけるが、持続が「分たれない広がり」を持つのは見逃しえない特徴である（カンポがドゥルーズのスパティウムを参照するのもそのためである）。しかしそれは、「全順序」の系列——デッペが時間的延長で指すもの——と決して混同されない。マクタガートとの違いは、時制よりもむしろ文法的アスペクト、それも完結相を加えたトライアドとしてのアスペクトによって枠づけられると提唱するのが平井（2-2）である。

『時間と自由』第二章は前触れもなく数論から始まる。もちろんそこにはカント的文脈があるわけだが、しばしば注目されてきたその手続き的・構成主義的側面を踏まえつつも、他方で、多様体を梃子にすることで、人が普通「時間」と呼んでいるものをも「空間」に位置付ける独自の空間論との関わりが、ベルクソンの数論を特徴づけている。この問題に取り組むのが近藤（2-3）である。近藤も見逃さないように、ここには動物における空間知覚をめぐる論点があり、延長と空間の差別化がある。前者と『物質と記憶』における生態学的知覚論、後者と『創造的進化』における知能と空間の共発生テーマと



の連関は決して自明ではない。

第一章で強度から純化された質は、互いに浸透する異質的多様体として「自我」を構成する。その習慣は硬直した表皮を形成し、深層は過去の総体とともに人格の基底を作る。この多様体そのものが熟慮と呼ばれるプロセスを通じて変容していく様が、続く第三章「意識状態の有機的組織化について—自由」では描かれる。『物質と記憶』において本性の差異で隔てられることになる二つの記憶力が、ここでは未分化なのだと考えるのは安易な道である。先述の度合いの問題との重ね合わせを考えるなら、むしろ自我論を起点に「本性の差異」の意味のほうを再吟味する道もある。

過去全体からなる自我が実在的なものであるなら、そしてそこから外的 세계に介入する行為を発動させるのであるなら、持続は、『時間と自由』においてすでに狭義の時間経験を巨視的な記憶の時間の方向に超えており、存在論的な時間の方向に浸潤している。続く『物質と記憶』は微視的な物質の時間へ、『創造的進化』はさらに巨視的な進化の時間へと持続の多元化を推し進めていくだろう。だが異なる緊張度は単なるスペクトラムではない。その背後にはそれをもたらす、対立し拮抗する二つの傾向があるからだ。現象的な持続の背後にあって、それをメカニズムのレベルで支えている構造に、『時間と自由』のベルクソンが無頓着であったわけではないことを見逃さないために、藤田（3-2）の試みる人格概念の分析は有益だろう。

この第三章は、決定論と非決定論がともに前提する「空間化」を丁寧な分析的論述で暴き出すのと並行して、躊躇や熟慮の名で呼ばれる自我変容プロセスを含むような持続ベースの意思決定理論を胚胎する。ピカヴェ（3-1）の論考は、空間化を施された静態的な意思決定モデルの有効性を切り捨てる

のではなく、それを特殊例として含むような上位モデルとしてベルクソンを読む可能性を示唆してくれる。村山（3-3）は、自由における「発出」や「表現」よりもむしろ「定義不可能な類似性」に着眼し、それを19世紀芸術における「自己表現」の文脈へと鮮やかに定位してみせる。

バリー・デイントンとPBJが2021に共催したワークショップ（PBJ-IV-9）は、コンパクトながら『時間と自由』が宿す上述のテーマ群をそれなりにカバーするものとなった⁹⁾。デイントン、神山薫、アンヌ=ゾフィー・マイケ、ヤーロン・ウルフ、藤田、村山、平井が登壇し、二日間にわたって、時間経験、共感、自由意志、因果性などのトピックが議論された。

『時間と自由』からのさまざまな展開（本書第4部～第6部）

『時間と自由』から以後の諸著作への展開は、決して単線的なものではない。同じ語が別な顔を持つことは言うに及ばず、問題の系譜は錯綜し、不器用に伸びた枝々はそこかしこにゴツゴツとした瘤を隆起させる。ベルクソン哲学の姿勢制御は実にアクロバティックだ。前の著作を後の著作の前駆形態にすぎぬものと見なすのは知能の遡行バイアスに他ならないが、後の仕事が先立つそれの凝固を遅延させ、その遅延から予期せぬ新たな問い合わせが発露することも稀ではない。そこに哲学史研究のダイナミズムが宿る。

過去は必ずしも完了ではない。そうでなければ純粹記憶の束から発明は産まれまい。テクストは一枚でも、そこに埋め込まれた問い合わせの地形はスケールや可能的行動の中心ごとに輻輳しうる。それは相対主義への退行であるどころか、実在の内奥を貫く、持続そのものの本性に由来する事態なのだ。

前述したように、過去を切除しない現在の持続は、初めから「記憶」である。『創造的進化』を待つまでもなく、『物質と記憶』はすでにこれを「進化」の文脈に据え、空間に広がる直接知覚を行為の関数とする認識論の第二次コペルニクス的転回を告げる。中心身体ごとに互いに似ても似つかぬ知覚のランドスケープは、主観のうちに囲い込まれることなく、同じ物質システムの異なる減算として共立し、互いを排除しない。

全過去の非物質的残存という、見るからに形而上学的主張と裏腹に、ベルクソンの「想起」の理解は、観照的写実ではなく実践的有用を強調する草分け的立場に數えられる。現代の分析系記憶の哲学の第一人者であるクルケン・ミカエリアンの提唱するシミュレーション主義¹⁰⁾を台風の目として活発に繰り広げられる諸議論のただなかにベルクソンを位置付け直す仕事は、今やわれわれの活動の大きな柱となっている。ミカエリアンが所長を務める「記憶の哲学センター」（CPM: Centre for Philosophy of Memory）との共催になる継続的ワークショップ Remembering: Analytics & Bergsonian Perspectives は彼我ですでに3回を数えるが（PBJ-IV-4, 14, 20）、さらにこれ

とは別個に、同センターのドニ・ペラン、原健一、平井の3名でデジャヴュ論をめぐる「新ベルクソン主義的見解」を提唱した（PBJ-IV-10）¹¹⁾。

では、「身体からの独立」という記憶の規定はどうなるのか。『時間と自由』の自由行為論の道筋の先にその行方を問うのが天野（4-2）である。新資料である『記憶理論の歴史』（後述）も駆使しながら、彼女は記憶の並進と自転のメカニズムを解剖していく。『時間と自由』の自我論が1900年の小著『笑い』にも接続しうることを示したのが中原（4-1）である。「こわばり」と「しなかやさ」の拮抗は、すでに『創造的進化』や『道徳と宗教の二源泉』の大道具を予告しつつも、喜劇の笑いと悲劇の悲壯のはざまに、生命と社会と個性の交わる不可視なる機微を探り当てるための特権的なソナーとして機能する。そのことを彼女の論述は証左している。

『創造的進化』は生物の予見不可能な「形態」の創出を扱うだけではない。生物に利用可能な「認識」自体を、進化の分岐と変形のうちで描き出す。本能・知能・直観・共感の認識能力論である。彼の科学批判が単なる精神主義・感情主義からの反動ではありえないのは、知能自体の制約を進化から基礎付けることで、その内在的打開の道を合わせて示すからである。同じエランから異なる枝として機能分化した知能は、「人工的」なものでない限り本能から隔絶しない。ここからベルクソン独自のさまざまなメタ哲学的論述が出てくることになるのは周知の通りである。デイントン（4-3）は、著名な精神科医・作家のイアン・マギルクリストの近著を介して現代の脳科学の知見にこれを結びつける。言うまでもなく、単純な局在説が許されるような論点ではない。だが、脳に精神が局在しないとするこの意味を、より大局的な描像のなかで問い合わせることに差し掛かっていることは確かだろう。

『道徳と宗教の二源泉』と『時間と自由』は思いのほか似ている。あらゆる理屈の背後に、魂を震撼させる情動がなければ、個人にも社会にも本質的な改革は訪れない——この根源的なテーゼは、その倍音を重ねこそれ、微動だにしないと言えるだろう。言語も道徳も、そこに統制的修飾がいかに施されようとも、ベースは慣習の沈殿物である。それが織りなす「閉じた」体系は、人々を安寧と快適のうちに置くかもしれないが、全身を震わすような創造の歓びも、期待すらしなかったものを自分から引き出させる「呼びかけ」の驚異も望めない。だがもちろん、両者を隔てる四三年の歳月は圧縮不可能な厚みを持つ。その響きがいかに『試論』のそれと重なろうとも、例えエラン説の練り上げなしに同じことを語ることはできなかつたであろう。

本書第五部の「持続概念の社会論的展開」は、ベルクソン哲学全体を視野に収めることを要求するという意味で、もっともチャレンジングなパートである。アルニサジ（5-1）の議論がスリリングであるのは、『二源泉』のうちにお潛む植民地主義的偏見——これは「社会進化」を語る際につきまと

危うさと無縁ではない——を、ベルクソンの持続概念そのものによって告発する点である。『時間と自由』のみならず、過去との共存や傾向性といった他著作での特徴づけを総合的に踏まえた上で、差別の背後にこびりつく直線的進展の時間像を抉り出す。檜垣（5-2）が検証するのは、新唯物論的文脈において生の水準からフェミニズムを定位し直そうとするエリザベス・グロスのベルクソン読解である。なお支配的である精神分析のそれとは異なる、生物学的な時間性のもとで性的身体を捉え返す。その「内実の実質化」はベルクソニアンの課題でもあると彼は締めくくっている。科学の進歩という観点からベルクソンの持続の哲学に新たな光を当てるのが安孫子（5-3）の論考である。パスカルとコントの科学像の系譜にベルクソンを位置付けつつ、広範なテクスト群から「科学論（〈進歩〉）と社会論（〈規約〉）との重なり合い」を浮かび上がらせていく。

第六部は、「持続概念の日本の展開」である。ここ日本におけるベルクソン受容には、世界的に見て実に個性的なところがある。全世界におけるベルクソン受容の多様性を跡づけるグローバル・ベルクソニズム・リサーチ・プロジェクトのアジア大会（PBJ-IV-11）は、プロジェクト理事でもある平井が2021年当時拠点としていた福岡の名を冠して開催され、その後、国際ベルクソン協会（SAB：Société des amis de Bergson）が刊行するオンライン雑誌 *Bergsonian* の第3号¹²⁾として結実している。収録論文を繙けば、『試論』と『二源泉』をつなぐワームホール的主題である「社会」に、日本哲学的な持続受容の一つの収斂点があることを確認できる。だが、その響きに反して、社会が持続と交わる地点は、時に容赦無くラディカルであり、形而上学的である。第六部に収録した二つの論考は、その好例であろう。

杉村（6-1）は、シェリングとベルクソンの方法的不徹底を、カント的制約を払拭し両者の「相互貫入」を果たすことで乗り越えようとする西谷啓治の「卒業論文」のうちに、実に魅力的な純粹持続の変形を見届ける。『再起動』に収録された西田幾多郎論¹³⁾と併せて読まれたい。九鬼周造とベルクソンの交差を扱うエペルソルト（6-2）は、後者によって批判される「様相の偶然」から前者の「邂逅の偶然」を取り戻し、持続における「同時性」「共時性」の再解釈のうちに結び合わせ、かくして両哲学を相補的な仕方で理解させる。

第 IV 期 PBJ のその他の活動主軸

以上、本書の収録に即して活動紹介を行ってきたが、触れなかつたいくつかの研究主軸を列挙しておこう。

初めに、コレージュ・ド・フランスにおけるベルクソンの講義録の翻訳と出版は、このプロジェクトの重要な柱である。フランスで2016年から2019年にかけて新たに登場した四年度分の新資料のうち、1902-1903年度の『時

間観念の歴史』と1903-1904年度の『記憶理論の歴史』を、われわれはそれぞれ2019年と2023年に翻訳出版した¹⁴⁾。間投詞や言い淀みまでつぶさに拾い上げた速記録は、哲学者の声を直に伝える「ライブ盤」である。その翻訳の務めは、時空を超えるアントワーヌ・ベルクソンという「人」の文字通り警咳に接する特権的幸福とともにあった。すでにその効果が現れ始めているように、これらの講義は、時間と記憶をめぐるベルクソン思想の解像度を飛躍的に向上させる¹⁵⁾。それぞれに複数の合評会を催し、納富信留、鈴木泉、三浦洋、蔵田伸雄、村松正隆、中畠正志、山口裕之といった名だたる古代・近現代哲学の専門家から、分析哲学の青山拓央、科学哲学の森田邦久、精神医学の兼本浩祐、学習心理学の澤幸祐といった多様な登壇者を招き、複眼的な分析が行われた（PBJ-IV-1, 6, 7, 21, 22）¹⁶⁾。これらの企画は、ベルクソンの講義が提供する豊かな概念的資源を現代の学問的枠組みの中で評価することを可能にした。

次に、新たな生物学との結びつきがある。ポール＝アントワーヌ・ミケルとエリー・デューリングが2019年にトゥールーズで主催した国際ワークショップ（PBJ-IV-3）では、郡司ペギオ幸夫と平井がレクチャラーとして招かれ¹⁷⁾、多くのベルクソン研究者と第一線の数理生物学者たちが集結した。さらにPBJでは、マチルド・タアール、米田翼、タノ・ポステラーロら若手研究者たちによる『創造的進化』再読解の波¹⁸⁾に併せて、論点整理のためのワークショップを数多く催した（PBJ-IV-12, 13, 18）。これらの活動は、生物学の分野においてベルクソンの思想が提供するヴィジョンの重要性を再確認させるものであった。

第三に、数学的射程である。近藤（6章）も指摘する通り、ベルクソンと数学との関係はお世辞にも十分開拓されているとは言えない。その第一部が「ベルクソン的算術」、第二部が「ベルクソン的幾何学」と題されたセバスチャン・ミラヴェットの *Bergson structuraliste*（『構造主義者ベルクソン——もう一つの構造的・認知的人類学の夜明け』）¹⁹⁾は、今後の重要な準拠点となるだろう（PBJ-IV-23）。永野拓也とベルクソン哲学研究会とPBJが2019年に共催したワークショップ「ベルクソンにおける持続とその数学的射程」（PBJ-IV-2）には、この書の著者と、岡嶋隆佑、エリー・デューリング、永野が揃った。本書第4部の終わりに、そこで行われた記憶の共存をめぐる討議の一部を掲載した（4-4）。持続と記憶の数学的構造について、深められるべき論点が多く示されている。

最後に、物質の位置付けにも触れておこう。『物質と記憶』において物質は持続の仲間入り——いわばその下限として——を果たすと言われる。現代汎心論との照合は、ベルクソン的汎心論の特異性を見積もる上で不可欠の試みであった。ラッセル研究者の高村夏樹、ホワイトヘッド研究者の飯盛元章、平

井が登壇し、分析哲学者の鈴木貴之、メルロ＝ポンティ研究者の國領佳樹、ジェイムズ研究者の大庭諒がコメントした2019年のイベント（PBJ-IV-5）は、大陸系と分析系の理想的な対話として評価され翌年の『現代思想』での特集号²⁰⁾に結実したほか、生物学者・森山徹と分析哲学者・山口尚を迎えた第二弾も試みられた（PBJ-IV-16）。狭義の物理学との関連もある²¹⁾。現在非平衡熱力学のパイオニアとして知られるノーベル賞物理学者イリヤ・プリゴジンがベルクソンからの影響を公言していることは知られているが、その立ち入った精査はなされてこなかった。平井は、物理学者の丸岡敬和、小出明広らと2023年秋に科学基礎論学会でワークショップを開催し²²⁾、その緒についたところである。

他にも、神経科学、意識研究、人工知能、ロボティクス、アート、精神医学などの協働は今後も続けられていくだろう。これら現代科学との接点は、拡張ベルクソン主義の代名詞とも受け取られている。だが、第Ⅳ期を終えた今、状況はまたしても変わりつつある。

第Ⅲ期が始まった頃、分析哲学との対話を旗揚げしなければならない程度には、両者のあいだに「断絶」があった。今ではそう述べることすら憚られるほど「当たり前」のことになっている。同じことが、科学との対話についても——他の哲学研究においても——今後起こるだろうと私は考えている。当たり前が変わっていけば、手探りの「対話」の向こうに、具体的な「成果」が求められる時代が来るだろう。そんな急峻な道を、ベルクソンは望んだだろうか。絶対に望んだだろうと断言できる。哲学者と科学者が「互いを補い、互いを修正し矯正し合いつつ、集合的にして漸進的な努力を投じることでしか構築される見込みがない」（『創造的進化』序論）のような学問というものを要求していたのは、当のベルクソンなのだから。

訪れつつある変化はもう一つある。それは「誤解」を払拭する形で示すのがよいだろう。拡張ベルクソン主義は時に、文献学的・思想史的研究に背を向けるものと取られたことがあった。それは初めから誤解である。2021年の日仏哲学会との共催ワークショップ（PBJ-IV-8）において安孫子、杉村、檜垣、合田らPBJのコアメンバーによって打ち出された「思想史的ポテンシャル」のインパクトを知る人には説明無用であるように、それは三元的アプローチの揺るがぬ一角を担っているからである。だが他方で、「当たり前」の抵抗に抵抗するために、反動的なベクトルが強く意識されたのは否めない。

興味深い変化は内側から起こる。拡張された二つの主軸から、思想史へのある種の「環流」が生じてきたのである。つまり、「拡張」は行ったきりの発散でも分岐でもないということだ。分析哲学や関連科学との学際的連携により、新たな理論的価値の発見や概念輪郭の明晰化に一定の効果が得られる。す

るとこの結果は、思想史研究に跳ね返り、從来見えてこなかつた新たな思想史的脈絡を浮かび上がらせざにおかない。大胆な概念的解剖が、新たな思脈の発掘に繋がり、そしてまた豊かな文脈づけが概念的のさらなる精緻化に貢献するという、**哲学と哲学史の好循環プロセス**がそこに生起する。

そんな絵空事が現実にありうるだろうか。そう訝しむ人があるかもしれない。結局、成果を出すことでしか——完了相においてしか——軌跡は描かれない。だが、時間の生きた報酬は、「ありうる」と「ありえない」の手前でしか味わえないようになっているらしいのである。

注

- 1) 2022年は、ベルクソンと浅からぬ関係を持つ『失われた時を求めて』の著者ブルーストの没後100年でもあった。
- 2) 第IV期のメイン財源は科学研究費・基盤研究(B)(一般)「ベルクソン『時間と自由』の総合的研究——国際協働を型とする西洋哲学研究の深化」(課題番号:19H01190)である。補助的に福岡大学の学内競争的資金(課題番号:197002, 203004)、慶應義塾大学の学事振興資金・特別個人研究費・潮田基金を利用した。記して感謝いたします。
- 3) ある周期が完結することがより大きな時間構造の組織化にとって不可欠な契機であることはベルクソンの持続理論の要諦に属する。
- 4) 『ベルクソン『物質と記憶』を解剖する——現代知覚理論・時間論・心の哲学との接続』(書肆心水、2016年)、『ベルクソン『物質と記憶』を診断する——時間経験の哲学・意識の科学・美学・倫理学への展開』(書肆心水、2017年)、『ベルクソン『物質と記憶』を再起動する——拡張ベルクソン主義の諸展望』(書肆心水、2018年)、いずれも平井靖史・藤田尚志・安孫子信の共編による。
- 5) Hirai, Y. (ed.) *Bergson's Scientific Metaphysics: Matter and Memory Today*, Bloomsbury, 2023.
- 6) 卷末の「PBJ活動記録」を参照。なお、2022年には国内でベルクソンの書籍が六冊も刊行され、出版界の話題を集めた。檜垣立哉『ベルクソンの哲学』(講談社学術文庫、2022)、平賀裕貴『アンリ・ベルクソンの神秘主義』(論創社)、藤田尚志『ベルクソン反時代的哲学』(勁草書房、2022)、米田翼『生ける物質——アンリ・ベルクソンと生命個体化の思想』(青土社、2022)、平井靖史『世界は時間でできている——ベルクソン時間哲学入門』(青土社、2022)、檜垣立哉・平井靖史・平賀裕貴・藤田尚志・米田翼『ベルクソン思想の現在』(書肆侃侃房、2022)。
- 7) 福元圭太『賦靈の自然哲学』九州大学出版会、2020。
- 8) 2015年、バリー・デイントンの最初の招聘を発案したのは岡嶋隆佑(新潟大学)であった。その後デイントンは『解剖』シリーズの全てに参加している。
- 9) 当初2020年3月にリバプール大学のロンドン施設で開催を予定していたものの、直前のパンデミックのため翌年に延期され、オンライン開催となった。試験的に設けた非Zoomのバーチャル「休憩室」は、より深い学術交流にとって実に有効であった。
- 10) Michaelian, K. *Mental Time Travel: Episodic Memory and Our Knowledge of*

the Personal Past, The MIT Press, 2016.

- 11) 以下がレポジトリからアクセス可能である。平井靖史、原健一、ドニ・ペラン「デジタル記憶——ベルクソンと現代記憶哲学」『人文論叢』(福岡大学人文学部) 第53巻第4号、1075-1115頁、2022年3月。さらに、2024年3月に台北で開催された記憶の哲学の国際会議「Eurasian Memory Meeting」には、平井と原が招かれベルクソンに関するセッションが設けられるなど、ベルクソンの記憶理論は現代分析系記憶の哲学という文脈のうちに明確な場所を持ち始めている。
- 12) *Bergsoniana 3 “Nothingness and Intuition-Bergsonism in East-Asia”* (特集「無と直観：東アジアにおけるベルクソン」) 2023. 以下の URL から閲覧できる。<https://journals.openedition.org/bergsoniana/1039>
- 13) 「純粹記憶の「自覚」——西田幾多郎の絶対無の哲学からの（過剰）解釈」平井靖史・藤田尚志・安孫子信共編著『ベルクソン『物質と記憶』を再起動する——拡張ベルクソン主義の諸展望』(書肆心水)、2018年所収。
- 14) アンリ・ベルクソン『時間観念の歴史——コレージュ・ド・フランス講義 1902-1903年度』(藤田尚志・平井靖史・岡嶋隆佑・木山裕登による共訳)書肆心水、2019年。アンリ・ベルクソン『記憶理論の歴史——コレージュ・ド・フランス講義 1903-1904年度』(藤田尚志・平井靖史・天野恵美理・岡嶋隆佑・木山裕登による共訳)書肆心水、2023年。
- 15) 本書の天野論考や平井『世界は時間でできている』(青土社、2022)など。
- 16) いずれの合評会についてもその記録が既刊または公開予定である。IV-5については『哲学年報』第67号(北海道哲学会)、2021年、1~9頁(ISSN 1344-929X)。IV-6については平井靖史・青山拓央・岡嶋隆佑・藤田尚志・森田邦久「ベルクソンと現代時間哲学(上)」「人文論叢」(福岡大学人文学部)第53巻第2号、495-528頁、2021年9月、および平井靖史・青山拓央・岡嶋隆佑・藤田尚志・森田邦久「ベルクソンと現代時間哲学(下)」「人文論叢」(福岡大学人文学部)第53巻第3号、941-969頁、2021年12月。
- 17) 平井上掲書において凝縮理論の鍵として援用されることになる「識別可能性」という概念が初めて発表されたのはこの会議においてである。
- 18) Posteraro, T. *Bergson's Philosophy of Biology*, Edinburgh University Press, 2022. 米田翼『生ける物質——アンリ・ベルクソンと生命個体化の思想』青土社、2022年。Mathilde Tahar も博士論文ベースの書籍を近刊予定である。
- 19) Sébastien Miravete, *Bergson structuraliste : l'aube d'une autre anthropologie structurale et cognitive*, les presses du réel, 2023.
- 20) 『現代思想』vol. 48-8 (特集 汎心論——21世紀の心の哲学)、2020年6月。
- 21) 『ベルクソン『物質と記憶』を再起動する——拡張ベルクソン主義の諸展望』の平井による序論、「『物質と記憶』と現代物理学」25-28頁も参照のこと。
- 22) 科学基礎論学会2023年度 秋の研究例会ワークショップ「時間の中のプリゴジン:哲学と物理学を架橋する」神戸大学(六甲台第1キャンパス 社会科学系アカデミア館)、2023年11月25日。

PBJ 活動記録（2007.4-2024.3）

藤田尚志

発表題目などを含む詳細な記録はいずれHP上などで公開予定。ここでは大まかな全容を記す。（敬称略、所属は当時。日仏以外の研究機関に国名を付す。）

◆PBJ-0（キックオフ企画）：ベルクソン『創造的進化』刊行百周年を記念して

2007年4月19日（木）～21日（土）トゥールーズ第二大学

オーガナイザー：アルノー・フランソワ、ピエール・モンテベロ、ジャン＝クリストフ・ゴダール、藤田尚志　主催：仏 ANR「主体性と疎外」、トゥールーズ第二大学 ERRAPHIS
協力：Archives Husserl (ENS-Paris)・クレルモン＝フェラン大学 PHIER

登壇者：杉山直樹（学習院大学）、フレデリック・ヴォルムス（リール大学／ENS-Paris）、アンヌ・ソヴァニヤルグ（ENS-Lyon／独ミュンヘン大学）、カミーユ・リキエ（ソルボンヌ大学）、金森修（東京大学）、ピエール・モンテベロ（トゥールーズ第二大学）、ジュゼッペ・ビアンコ（リール第三大学）、トーマス・キッサー（独ミュンヘン大学）、ギヨーム・シベルタン＝ブラン（リール第三大学）、アラン・ブチ（クレルモン＝フェラン第二大学）、ジュリー・カステクト（トゥールーズ第二大学）、エマニュエル・カタン（クレルモン＝フェラン第二大学）、藤田尚志（日本学術振興会・リール第三大学）、ポール＝アントワーヌ・ミケル（ニース大学）、ニコラ・コルニペール（トゥールーズ第二大学）、アルノー・ブニアッシュ（リール第三大学）、安孫子信（法政大学）、フランソス・ケメックス（ベルギー FNRS、リエージュ大学）、シルヴァン・ルー（ポワティエ大学・クレルモン＝フェラン第二大学）、アルノー・フランソワ（リール第三大学）

第Ⅰ期：PBJ2007-2009（代表：安孫子信）

平成19年度科学研究費助成金・基盤研究（B）「ベルクソン『創造的進化』の総合的研究——受容史的背景を踏まえた西洋哲学研究の再構築」（課題番号：19320006）

◆PBJ2007. 生の哲学の今——ベルクソン『創造的進化』刊行百周年記念国際シンポジウム（PBJ-I-1）

2007年10月16日（火）17日（水）20日（土）学習院大学、法政大学、京都大学

登壇者：フレデリック・ヴォルムス（リール第三大学）、杉山直樹（学習院大学）、カミーユ・リキエ（パリ第四大学）、藤田尚志（日本学術振興会）、ピエール・モンテベロ（トゥールーズ第二大学）、平井靖史（福岡大学）、ジャン＝フランソワ・ブロンスタイン（パリ第一大学）、安孫子信（法政大学）、ポール＝アントワーヌ・ミケル（ニース大学）、金森修（東京大学）、アルノー・フランソワ（リール第三大学）、ミシェル・ダリシエ（慶應義塾大学）、ジョン・マラーキー（英ダンディー大学）、檜垣立哉（大阪大学）、マイケル・コルクマン（英ウォリック大学）、マイケル・ヴォーン（英ウォリック大学）、合田正人（明治大学）、ス

ザンヌ・ガーラック（米カリフォルニア大学バークレー校）、守永直幹（宇都宮大学）

◆PBJ2007a. ワークショップ「生の哲学の彼方——ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』再読」
2007年10月18日（木）東京大学本郷キャンパス

岩田文昭（大阪教育大学）、杉村靖彦（京都大学）、フレデリック・ヴォルムス（リール第三大学）、瀧一郎（大阪教育大学）、アルノー・フランソワ（リール第三大学）、鶴岡賀雄（東京大学）、中村弓子（お茶の水大学）、ジャン＝クリストフ・ゴダール（ポワチエ大学）

◆PBJ2007b. ワークショップ「現代フランス哲学と生命論」

2007年10月19日（金）東京大学本郷キャンパス

主催：東京大学グローバルCOE「死生学の展開と組織化」

ピエール・モンテベロ（トゥールーズ第二大学教授）、コメンテーター：鈴木泉（東京大学）

◆PBJ2008. PBJ 第2回国際シンポジウム「東アジアにおけるベルクソン——『創造的進化』の受容と展開」（PBJ-I-2）

2008年10月9日（木）～11日（土）法政大学、明治大学

登壇者：リュ・ジソク（韓国・釜山大学）、杉山直樹（学習院大学）、志野好伸（明治大学）、王礼平（中国・浙江大学）※金森による代読）、合田正人（明治大学）、谷口薰（四国大学）、ハン・ヘジン（韓国・ソウル大学）、宇野邦一（立教大学）、藤田尚志（日本学術振興会）、ファ・スヨン（韓国・ハルリム大学）、財津理（法政大学）、檜垣立哉（大阪大学）、アルノー・フランソワ（トゥールーズ第二大学）、松本力（法政大学）、神山薰（一橋大学）、チエ・ルエ（韓国・慶熙大学）、安孫子信（法政大学）、増田靖彦（早稲田大学）

◆PBJ2008a. 明治大学国際交流センター主催第308回スタッフセミナー：アルノー・フランソワ（トゥールーズ大学専任講師）講演会「歴史と正義——ニーチェとベルクソンにおける正義の発生と系譜学」

2008年10月10日（金）明治大学

◆PBJ2008b. ヘンゼン・ハン（コレージュ・ド・フランス助教授・ソウル大学研究員）講演会「フランス生気論の誤解された戦略」

2008年10月14日（火）東京大学本郷キャンパス 主催：PBJ

◆PBJ2008c. 明治大学国際交流センター主催第313回スタッフ・セミナー：フレデリック・ケック（CNRS研究員・EHESS-Paris「社会学・政治・道徳」グループ）講演会「ベルクソン：レヴィ＝ブリュールとレヴィ＝ストロースのあいだで——“未開”社会における保証と信頼」

2008年12月8日（月）明治大学

◆PBJ2009. PBJ 第3回国際シンポジウム「生の哲学の行方」（PBJ-I-3）

2009年10月23日（金）～25日（日）法政大学、明治大学

登壇者：フレデリック・ヴォルムス（リール第三大学）、合田正人（明治大学）、村山達也（慶應義塾大学）、神山薰（西武文理大学）、谷口薰（四国大学）、アルノー・フランソワ（トゥールーズ第二大学）、デボラ・モラート（ブラジル・サンカルロス連邦大学）※急病のため来日中止、ピート・ガンター（米ノーステキサス大学）、永野拓也（熊本電波工業高等専門学校）、エリー・デューリング（パリ西＝ナンテール大学）、安孫子信（法政大学）、ジャン＝ルイ・ヴィエイヤール＝バロン（ポワティエ大学）、ファン・スヨン（韓国・ハルリム大学）、宇野邦一（立教大学）、ポール＝アントワヌ・ミケル（ニース大学）、藤田尚志（九州産業大学）、檜垣立哉（大阪大学）、ロッコ・ロンキ（伊ラクイラ大学）、ジョン・マラーキー（英ダンディー大学）※英国よりヴィデオ・コンフェランス

◆PBJ2009a. ワークショップ「生命と記憶——ベルクソンとドゥルーズにおけるデジャヴ」

エリー・デューリング（パリ西＝ナンテール大学）×鈴木泉（東京大学）×藤田尚志（九州産業大学）

2009年10月28日（水）東京大学本郷キャンパス

主催：G-COE「死生学」

◆PBJ2009b. 『時間と生命：エリー・デューリングを囲んで』

主催：大阪大学人間科学研究科基礎人間科学講座

第1日：『持続と同時性』校訂版刊行記念レクチャーセミナー「パースペクティヴの思考——

今日ベルクソン『持続と同時性』を読み直す』

2009年10月21日（水）大阪大学吹田キャンパス

聞き手：三宅岳史（京都大学） 司会：檜垣立哉（大阪大学）

第2日：ワークショップ「時間と生命——現代物理学から現代芸術へ」

2009年10月30日（金）大阪大学吹田キャンパス

エリー・デューリング（パリ西＝ナンテール大学）、三宅岳史（京都大学） 司会：檜垣立哉（大阪大学）

第II期：PBJ2011-2013（代表：安孫子信）

平成23年度科学研究費助成金・基盤研究（B）「ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の総合的研究——国際協働による西洋哲学研究の再構築」（課題番号：23300263）

◆PBJ2011. PBJ 第4回国際シンポジウム「ベルクソンと災厄——今、『道徳と宗教の二源泉』を読み直す」（PBJ-II-1）

2011年10月24日（月）27日（木）29日（土）法政大学、京都大学、九州産業大学

主催：PBJ 後援：フランス大使館、ベルクソン哲学研究会、法政大学、京都大学、九州産業大学

登壇者：ポール・デュムシェル（立命館大学）、安孫子信（法政大学）、アルノー・フランソワ（トゥールーズ第二大学）、平井靖史（福岡大学）、増田靖彦（早稲田大学）、ヨハンネス・シック（独ユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク）、フレデリック・ヴァオルムス（リール第三大学）、杉村靖彦（京都大学）、岩野卓司（明治大学）、ジスラン・ヴァテルロ（スイス・ジュネーヴ大学）、フロランス・ケメックス（ベルギー・リエージュ大学）、檜垣立哉（大阪大学）、カテリーナ・ザンフィ（伊波ローニャ大学）、チブリアン・ジェレル（ルーマニア、アレクサンドル・イオン・クーザ大学）、合田正人（明治大学）、アルノー・ブアニッシュ（リール第三大学）、藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ2011a. プレ・イベント：若手研究者セミナー

2011年10月23日（日）法政大学

北夏子（筑波大学）、天野恵美理（京都大学）、小野浩太郎（法政大学／パリ第一大学）、磯部悠紀子（聖心女子大学）、橘真一（大阪大学）

◆PBJ2012. PBJ 第5回国際シンポジウム「反時代的考察——ベルクソンと19世紀フランス哲学」（PBJ-II-2）

2012年10月13日（土）～20日（土）法政大学、京都大学

登壇者：村松正隆（北海道大学）、アンヌ・ドゥヴァリユー（カーン大学）、小野浩太郎（パリ第一大学／法政大学）、クレール・マラン（セルジー・カストレール高校）、安孫子信（法政大学）、ステファヌ・マデルリュー（リヨン大学）、伊達聖伸（上智大学）、アルノー・フランソワ（トゥールーズ第二大学）、合田正人（明治大学）、フレデリック・ケック（CNRS）、村山達也（東北大）、セバスティアン・ミラヴェット（トゥールーズ第二大学）、ピエール・モンテベロ（トゥールーズ第二大学）、小関彩子（和歌山大学）、伊東俊彦（相模女子大学）、中村弓子（お茶の水女子大学）、菊谷和宏（和歌山大学）

◆PBJ2012a. プレイイベント：若手研究者セミナー

2012年10月13日（日）法政大学

北夏子（筑波大学）、木山裕登（東京大学）、岡嶋隆佑（慶應義塾大学）、橘真一（大阪大学）、川口茂雄（獨協大学）

◆PBJ2012b. ワークショップ「フランスと日本の高校における哲学教育の現在」

2012年10月16日（火）法政大学

登壇者：アンヌ・ドゥヴァリュー（カーン大学准教授）、クレール・マラン（セルジー・カストレール高校）、和田倫明（産業技術高専）、菅野功治（都立立川高校）

司会：西山雄二（首都大学東京）、藤田尚志（九州産業大学）

共催：東京都高等学校公民科「倫理」・「現代社会」研究会、科学研究費助成金・基盤研究（B）「啓蒙期以後のドイツ・フランスから現代アメリカに至る、哲学・教育・大学の総合的研究」

◆PBJ2013. PBJ 第6回国際シンポジウム「結びの考察——ベルクソンの『道徳と宗教の二源泉』をめぐって」（PBJ-II-3）

2013年11月5日（火）～8日（金）パリ国際大学都市・日本館

登壇者：ブリジット・シトボン＝ペイヨン（EPHE）、アレクサンドル・ルフェーヴル（豪シドニー大学）、藤田尚志（九州産業大学）、檜垣立哉（大阪大学）、セバスチャン・ミラヴェット（トゥールーズ第二大学）、平井靖史（福岡大学）、安孫子信（法政大学）、ローラン・フェディ（ストラスブル大学）、アルノー・フランソワ（トゥールーズ第二大学）、フレデリック・ヴァルムス（ENS）、パトリシア・ヴエルドー（トゥールーズ第二大学）、アルノー・ブアニッシュ（リール大学 UMR STL・CIEPFC）、杉村靖彦（京都大学）、合田正人（明治大学）、張政遠（中国・香港中文大学）、黒田昭信（セルジー＝ポントワーズ大学）、ミシェル・ダリシエ（同志社大学）、小林敏明（独ライプツィヒ大学）

◆PBJ2013a. プレイイベント：若手研究者セミナー

2013年11月5日（火）パリ国際大学都市・日本館

司会：エリー・デューリング（パリ西＝ナンテール大学）

米田翼（大阪大学）、松井久（パリ西＝ナンテール大学）、笠木丈（EHESS/京都大学）、ジュ・ジェヒョン（パリ文理研究大学）、平賀裕貴（立教大学）

◆PBJ2013b. シティフィロ（第17回哲学のヨーロッパ月間）日本特集への参加

◆PBJ2013b-1. 「日本哲学とは何か」リール第三大学哲学科との共催

2013年11月9日（土）リール美術館（Palais des Beaux-Arts）大ホール

第1部（15:30-16:30）フランス・キュルチュールのラジオ番組「Nouveaux Chemins de la Connaissance」の公開録音：杉村靖彦（京都大学）、ミシェル・ダリシエ（同志社大学） 司会：アデル・ヴァン・レート（哲学者、ラジオ局フランス・キュルチュールプロデューサー）

第2部（16:30-17:30）安孫子信（法政大学）、杉村靖彦（京都大学）、檜垣立哉（大阪大学）、ミシェル・ダリシエ（同志社大学） 司会：アルノー・ブアニッシュ（アラス・ガンベッタ＝カルノー高校グランゼコール準備学級哲学教授）

◆PBJ2013b-2. オギュスタン・ベルク（地理学者・東洋学者・哲学者：2009年度福岡アジア文化賞大賞）講演会「考える、住む、建てる——和辻哲郎の『風土』をめぐって」

2013年11月9日（土）リール美術館大ホール

応答者：合田正人（明治大学）、檜垣立哉（大阪大学）、平井靖史（福岡大学） 司会：アルノー・ブアニッシュ（アラス・ガンベッタ＝カルノー高校）

◆PBJ2013b-3. 公開討議「京都学派をめぐって」

2013年11月10日（日）リール美術館大ホール

ベルナール・スティーヴンス（哲学者、翻訳家、画家）、合田正人（明治大学）、ミシェル・ダリシエ（同志社大学）、杉村靖彦（京都大学） 司会：藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ2013b-4. 「日本とカタストロフィ」

2013年11月10日（日）リール美術館大ホール

安孫子信（法政大学）、ジャン＝ジャック・デルフル（哲学者、エッセイスト、批評家）、藤田尚志（九州産業大学） 司会：クレリア・ゼルニック（パリ美術高等師範学校・芸術哲学教授）

第Ⅲ期：PBJ2015-2017（代表：平井靖史）

平成27年度科学研究費補助金・基盤研究（B）「ベルクソン『物質と記憶』の総合的研究——国際協働を型とする西洋哲学研究の確立」（課題番号：15H03154）

◆PBJ2015. PBJ 第7回国際シンポジウム「『物質と記憶』を解剖する——ベルクソンと現代知覚論理・時間論・心の哲学」（PBJ-III-1）

2015年12月10日（木）11日（金）13日（日）法政大学、明治大学、京都大学

後援：ベルクソン哲学研究会、法政大学、明治大学、京都大学、福岡大学、九州産業大学
登壇者：ポール＝アントワーヌ・ミケル（トゥールーズ第二大学）、三宅岳史（香川大学）、安孫子信（法政大学）、ジョエル・ドルボー（パリ・ガロワ高等学校）、合田正人（明治大学）、藤田尚志（九州産業大学）、スティーヴン・E・ロビンズ（無所属）、河野哲也（立教大学）、檜垣立哉（大阪大学）、セバスチャン・ミラヴェット（トゥールーズ第二大学）、平井靖史（福岡大学）、岡嶋隆佑（慶應義塾大学）、杉村靖彦（京都大学）、バリー・ディントン（英リバプール大学）、伊佐敷隆弘（日本大学）、エリー・デューリング（パリ第十大学）、郡司ベギオ幸夫（早稲田大学）

◆PBJ2016. PBJ 第8回国際シンポジウム「『物質と記憶』を診断する——ベルクソンと脳・時間・記憶の諸問題」（PBJ-III-2）

2016年11月10日（木）11日（金）13日（日）法政大学、明治大学、大阪大学

登壇者：岡嶋隆佑（慶應義塾大学）、松井久（法政大学）、中原真祐子（東京大学）、安孫子信（法政大学）、カミーユ・リキエ（パリ・カトリック学院）、村山達也（東北大学）、平井靖史（福岡大学）、バリー・ディントン（英リバプール大学）、太田宏之（防衛医科大学校）、小杉将誠（琉球大学）、笠木丈（EHESS）、佐藤愛（筑波大学）、合田正人（明治大学）、ジャン＝リュック・ブチ（ストラスブル大学）、兼本浩祐（愛知医科大学）、三宅岳史（香川大学）、デイヴィッド・クレプス（英サルフォード大学）、永野拓也（熊本高等専門学校）、杉村靖彦（京都大学）、ユリア・ポドロガ（スイス・ジュネーブ大学）、檜垣立哉（大阪大学）、増田靖彦（龍谷大学）、マイケル・R・ケリー（米サンディエゴ大学）、藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ2017. PBJ 第9回国際シンポジウム「『物質と記憶』を再起動する——拡張ベルクソン主義の諸展望」（PBJ-III-3）

2017年10月26日（木）27日（金）法政大学、明治大学、京都大学

登壇者：原健一（北海道大学）、田村康貴（東北大学）、吉野齊志（京都大学）、藤田尚志（九州産業大学）、フレデリック・ウォルムス（パリ高等師範学校）、安孫子信（法政大学）、村松正隆（北海道大学）、ポール＝アントワーヌ・ミケル（トゥールーズ第二大学）、村上靖彦（大阪大学）、増田靖彦（龍谷大学）、谷淳（沖縄科学技術大学院大学）、三宅陽一郎（日本デジタルゲーム学会）、三宅岳史（香川大学）、合田正人（明治大学）、バリー・ディントン（英リバプール大学）、平井靖史（福岡大学）、伊佐敷隆弘（日本大学）、檜垣立哉（大阪大学）、スティーヴン・D・ブラウン（英レスター大学）、杉村靖彦（京都大学）、伊東俊彦（相模女子大学）、アンヌ・ルフェーヴル（高等師範学校パリ・サクレー校）、平光哲朗（神戸学院大学）、永野拓也（熊本高等専門学校）、谷口薰（四国大学）

第IV期：PBJ2019-2024（代表：平井靖史）

※財源上、コロナ禍のため一年延長した上、2023年度にも多くの重要な活動を行っているため、本記録では2024年3月までを第IV期の活動に数える。
令和元年度科学研究費補助金・基盤研究（B）「ベルクソン『時間と自由』の総合的研究——国際協働を型とする西洋哲学研究の深化」（課題番号：19H01190）

◆PBJ2022. PBJ 第10回国際シンポジウム「時間と自由意志を求めて」（PBJ-IV）

2022年11月3日（木）4日（金）10日（木）11日（金）オンライン（ZOOM）

登壇者：安孫子信（法政大学）、アレッサン德拉・カンボ（伊ラクイラ大学）、三宅岳史（香川大学）、中原真祐子（上智大学）、アリア・アル＝サジ（カナダ・マギル大学）、檜垣立哉（大阪大学）、安孫子信（法政大学）、シモン・エベルソルト（INALCO）、杉村靖彦（京都大学）、エマニュエル・ピカヴェ（パリ第一大学）、藤田尚志（九州産業大学）、中原真祐子（上智大学）、合田正人（明治大学）、杉村靖彦（京都大学）、ソニア・デッペ（独ゲッティンゲン大学）、平井靖史（福岡大学）、天野恵美理（高崎経済大学）、近藤和敬（鹿児島大学）、バー・ディントン（英リバプール大学）、村山達也（東北大学）

◆PBJ-IV-1. 哲学と時間：ベルクソン『コレージュ・ド・フランス講義 時間観念の歴史』 合評会

2019年9月6日（金）学習院大学

主催：PBJ 後援：日仏哲学会

登壇者：納富信留（東京大学）、鈴木泉（東京大学）、藤田尚志（九州産業大学）、平井靖史（福岡大学）

◆PBJ-IV-2. 国際ワークショップ「ベルクソンにおける持続とその数学的射程」

2019年9月29日（日）東京大学

主催：平成29年度科学研究費補助金・基盤研究（C）課題番号JP17K02200（永野拓也）

共催：ベルクソン哲学研究会 後援：PBJ

登壇者：岡嶋隆佑（慶應義塾大学）、セバスティアン・ミラヴェット（トゥールーズ第二大学）、エリー・デューリング（パリ＝ナンテール大学）、永野拓也（熊本高等専門学校）

◆PBJ-IV-3. 国際ワークショップ「物理学的時間、生物学的時間：今日のベルクソニズム」

2019年10月24日（木）25日（金）トゥールーズ第二大学

登壇者：エリー・デューリング（パリ＝ナンテール大学）、バー・ディントン（英リバプール大学）、平井靖史（福岡大学）、ジュゼッペ・ロンゴ（CNRS, ENS）、ポール＝アントワーヌ・ミケル（トゥールーズ第二大学）、ピエール＝アンリ・グイヨン（パリ自然誌博物館）、郡司ベギオ幸夫（早稲田大学）、マエル・モンテヴィル（パリ Institut de recherche et d'innovation）

◆PBJ-IV-4. 国際ワークショップ「Remembering: Analytic and Bergsonian Approaches」

2019年10月28日（月）29日（火）記憶の哲学センター CPM（グルノーブル・アルプ大学）

主催：CPM & PBJ

登壇者：平井靖史（福岡大学）、アンドレ・サンタナ（グルノーブル・アルプ大学）、セバスチャン・ミラヴェット（トゥールーズ第二大学）、レザ・モスマー（イラン・テヘラン認知科学研究所）、藤田尚志（九州産業大学）、ドニ・ペラン（グルノーブル・アルプ大学）、クリストファー・マキャロル（グルノーブル・アルプ大学）、永野拓也（熊本高等専門学校）、櫻木新（芝浦工業大学）、バー・ディントン（英リバプール大学）

◆PBJ-IV-5. 「汎心論を再起動する ラッセル・ベルクソン・ホワイトヘッド」

2019年12月14日（土）中央大学

高村夏樹（松蔭大学）、平井靖史（福岡大学）、飯盛元章（中央大学）コメント：鈴木貴之（東京大学）、國領佳樹（立教大学）、大厩諒（中央大学）

◆PBJ-IV-6. 「ベルクソン『時間観念の歴史 コレージュ・ド・フランス講義 1902-1903』（書肆心水）日本語版刊行記念合評会：アリストテレス・カント・19世紀フランス哲学をめぐって」

2019年12月22日（日）北海道大学

主催：北海道哲学会 共催：PBJ

登壇者：三浦洋（北海道情報大学）、蔵田伸雄（北海道大学）、村松正隆（北海道大学）

応答者：藤田尚志（九州産業大学）、平井靖史（福岡大学）

◆PBJ-IV-7. 「ベルクソンと現代時間哲学：『時間観念の歴史』合評会」

2020年11月21日（土）オンライン

登壇者：青山拓央（京都大学）、岡嶋隆佑（新潟大学）、平井靖史（福岡大学）、藤田尚志（九州産業大学）、森田邦久（大阪大学）

◆PBJ-IV-8. 「ベルクソン『試論』の思想史的ポテンシャルを探る」（日仏哲学会提案型ワークショップ）

2021年3月19日（金）オンライン

登壇者：安孫子信（法政大学）、杉村靖彦（京都大学）、檜垣立哉（大阪大学）、合田正人（明治大学）冒頭挨拶：平井靖史（福岡大学） 司会：藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ-IV-9 国際ワークショップ「時間、自由、創造性——ベルクソン的パースペクティヴ」

2021年7月29日（木）30日（金）オンライン

主催：バリー・デイントン& PBJ

登壇者：バリー・デイントン（英リバプール大学）、平井靖史（福岡大学）、神山薫（宮城学院女子大学）、アンヌ=ゾフィー・マインケ（奥ウィーン大学）、ヤーロン・ウルフ（蘭ユトレヒト大学）、藤田尚志（九州産業大学）、村山達也（東北大大学）、マーク・シンクレア（英ローハンプトン大学）※欠席

◆PBJ-IV-10. 国際ワークショップ「デジャヴュと記憶——ベルクソンと現代記憶哲学」

2021年9月12日（日）オンライン

ドニ・ペラン（グルノーブル・アルプ大学）、原健一（金沢大学）、平井靖史（福岡大学）

◆PBJ-IV-11. GBP (Global Bergsonism Research Project) 2021 福岡ミーティング

2021年11月12日（金）18日（木）19日（金）オンライン

登壇者：安孫子信（法政大学）、カテリナ・ザンフィ（CNRS）、デン・ガン（中国・上海交通大学人文学院）、ファン・スヨン（韓国・弘益大学校）、杉村靖彦（京都大学）、フレデリック・ウォルムス（ENS）、ミシェル・ダリシエ（金沢大学）、藤田尚志（九州産業大学）、マルガリータ・カルカジヤンニ（ギリシア・アテネ大学）、エミール・ケンモーニュ（カメルーン・ヤウンデ第一大学）、アンナ・クシュミルク（ポーランド、ニコラウス・コペルニクス大学）、松井久（JSPS）、エリー・デューリング（パリ＝ナンテール大学）、マーク・レゴ（英 Mackintosh School of Architecture）、トマス・ミカル（ニュージーランド・オークランド工科大学）、ポール＝アントワーヌ・ミケル（トゥールーズ第二大学）、吉野斉志（京都芸術大学）、イ・チソン（韓国・江原大学校）、村山達也（東北大大学）、平賀裕貴（立教大学）、モルテン・E・ジェルビイ（ENS）、サイト・エーツエルヴァルリ（トルコ・イリディズ工科大学）、アレッサン德拉・カンボ（伊ラクイラ大学）、モヒート・アプロル（インド工科大学デリー校）、平井靖史（福岡大学）

◆PBJ-IV-12. マチルド・タール連続ワークショップ「ベルクソン『創造的進化』における時間と生物学」

2022年6月2日（木）3日（金）4日（土）福岡大学

主催：PBJ + CNRS

マチルド・タール（トゥールーズ第二大学）、濱田明日郎（京都大学）、天野恵美理（高崎経済大学）司会：平井靖史（福岡大学）、藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ-IV-13. 第45回フッセル・アーベント「傾向性としてのエラン・ヴィタル——進化における因果性とアリストテレス的様相」

2022年6月12日（日）東北大学+オンライン

後援：PBJ + CNRS

マチルド・タール（トゥールーズ第二大学） 指定討論者：中原真祐子（上智大学）、原健一（北海道大学）

◆PBJ-IV-14. ワークショップ「新しさと生命——ベルクソンと進化の哲学」

2022年6月18日（土）福岡大学セミナーハウス

主催：PBJ + CNRS

マチルド・タール（トゥールーズ第二大学）、米田翼（大阪大学） 特定質問者：平賀裕貴（立教大学） 司会：平井靖史（福岡大学）、藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ-IV-15. 「Remembering : Analytic and Bergsonian Approaches 2」

2022年10月2日（日）福岡大学+オンライン

主催者：平井靖史、クルケン・ミカエリアン、櫻木新

登壇者：クルケン・ミカエリアン（グルノーブル・アルプ大学）、櫻木新（芝浦工科大学）、原健一（北海道大学）、平井靖史（福岡大学）、藤田尚志（九州産業大学）、宮園健吾（北海道大学）

◆PBJ-IV-16. 公開シンポジウム「なぜ汎心論はパフォーマティブなのか」

2022年10月9日（日）中央大学+オンライン

共催：モノの心研究会、PBJ、時間・偶然研究会

提題者：森山徹（信州大学）、山口尚（京都大学）、平井靖史（福岡大学）、飯盛元章（中央大学）

◆PBJ-IV-17. 「精神物理学の起源と展望：フェヒナー、ベルクソン、そして……」

2023年1月7日（土）福岡大学+オンライン

提題者：福元圭太（九州大学）、本吉勇（東京大学）、藤田尚志（九州産業大学） 司会：平井靖史（福岡大学）

◆PBJ-IV-18. 「新たなベルクソン的生命哲学に向けて」

2023年1月24日、大阪大学+オンライン

タノ・ポステラーロ（カナダ・コンコルディア大学）、マチルド・タール（リール第三大学 ※オンライン）、米田翼（大阪大学） 司会：藤田尚志（九州産業大学）

◆PBJ-IV-19. 「日本のベルクソン研究の最前線（Bergson extrême-orientable）」

2023年3月13日（月）16日（木）20日（月）22日（水）パリENS+オンライン
平井靖史（福岡大学）、藤田尚志（九州産業大学） 司会：カテリナ・ザンフィ（ENS・国際ベルクソン学会会長）

◆PBJ-IV-20. 「Remembering : Analytic and Bergsonian Approaches 3」

2023年11月17日（金）記憶の哲学センター（グルノーブル・アルプ大学）

主催者：クルケン・ミカエリアン、ドゥジヤ・ブマザ、平井靖史、藤田尚志

登壇者：ドゥジヤ・ブマザ（グルノーブル・アルプ大学）、アルノー・ダルジャンボー（ベルギー・リエージュ大学）、藤田尚志（九州産業大学）、平井靖史（慶應義塾大学）、クルケ

ン・ミカエリアン（グルノーブル・アルプ大学）、宮園健吾（北海道大学）、ドニ・ペラン（グルノーブル・アルプ大学）アンドレ・サンタナ（スイス・ジュネーブ大学）、ウク・トゥーミン（エストニア・タルトゥ大学）

◆PBJ-IV-21. 「アンリ・ベルクソン『記憶理論の歴史——コレージュ・ド・フランス講義
1903-1904年度』刊行記念イベント第一弾：現代諸科学との接合編」

2024年1月29日（月）ZOOM

登壇者：兼本浩祐（愛知医科大学名誉教授）、澤幸祐（専修大学）

応答者：訳者一同（藤田尚志、平井靖史、天野恵美理、岡嶋隆佑、木山裕登）

◆PBJ-IV-22. 「アンリ・ベルクソン『記憶理論の歴史——コレージュ・ド・フランス講義
1903-1904年度』刊行記念イベント第二弾：思想史編」

2024年3月13日（水）ZOOM

登壇者：中畠正志（京都大学名誉教授）、山口裕之（徳島大学）

応答者：訳者一同（藤田尚志、平井靖史、天野恵美理、岡嶋隆佑、木山裕登）

◆PBJ-IV-23. 「Bergson Structuraliste — Atelier autour du livre de Sébastien Miravete」
2024年3月27日（水）ZOOM

登壇者：セバスティアン・ミラヴェット（トゥールーズ第二大学）、エリー・デューリング（パリ＝ナンテール大学）、永野拓也（熊本高等専門学校）、近藤和敬（大阪大学）、平井靖史（慶應義塾大学）、藤田尚志（九州産業大学）

人名索引

姓名表記は論文内のもの。欧文のみでの言及は拾っていない。

あ

- アウグステイヌス 27, 82-85, 88, 91, 109, 121
アウソニウス 149
青山拓央 23, 26, 125, 128, 129, 353
秋山伸子 193, 203
安孫子信 8, 15, 22, 24, 25, 26, 30, 126, 298, 342, 346-353, 357
天野恵美理 21, 26, 29, 204, 349, 352, 354-356
荒畑靖宏 125, 127, 129
アラン 78
アリストテレス 84, 85, 90, 113, 121, 129, 174, 316, 353
アル＝サジ, アリア 21, 29, 130, 264, 282, 283, 343, 344, 352, 357

飯盛元章 353, 354
イエーガー, ヴェルナー 90
伊佐敷隆弘 126, 128, 351
イクバール, ムハンマド 278
イリガライ 288-292, 295-297

ヴァテ, ミシェル 156
ヴィトゲンシュタイン 234
ウィトルウィウス 86
ヴェイユ, シモーヌ 78
上野俊哉 285
ウェヘリエ, アレクサンダー 278
ウェルギリウス 80
ウォード, ジェイムズ 48
ウォルコット, デレク 282
ヴォルムス, フレデリック 62, 206, 214, 217, 343, 347-350, 353
ウルフ, ヤーロン 20, 353

エックハルト 325
エピクロス 89
エビングハウス 69

- エベルソルト, シモン 22, 30, 159, 328, 331, 332, 340, 342, 343, 352, 357
エランベルジェ, アンリ 74
エンペドクレス 229

オウイディウス 79, 80
大鷹諒 24, 353
大森莊蔵 121
岡嶋隆介 23, 25, 26, 112, 113, 127, 350-353, 355
小田切裕史 188

か
- カーネマン 225
ガーラック, スザンヌ 281, 283, 348
カヴァイエス 145
ガタリ 287-289, 291
葛飾北斎 182
兼本浩祐 23, 351, 355
神山薰 20, 188, 348, 353
ガリレオ 303
カント, イマヌエル 39, 44, 45, 47-49, 51, 53, 77, 131-138, 142, 143, 145, 187, 222, 353
カントール 133
カンボ^ジ, アレッサンドラ 17, 18, 27, 32, 273, 344, 352, 356

キーリング, カラ 286
ギヴォン 118
木岡伸夫 127, 130
ギトン, アンリ 156
キハノ, アニバル 277
木山裕登 26, 32, 62, 94, 112, 113, 127, 346, 350, 355, 358
ギルロイ, ポール 285

クーチュラ 71

九鬼周造 22, 30, 159, 315, 328,
330-342
草間彌生 177
クラーゲス, ルートウェイヒ 78
歳田伸雄 23, 353
クリース, J.フォン 69
グリッサン, エドウアール 278, 279,
286
クローチエ 128, 175
グロス, エリザベス 22, 30, 265,
288-297
郡司ベギオ幸夫 23, 351, 352

ゲーテ 181, 222, 231

小出明広 24
合田正人 18, 24, 27, 61, 63, 78, 108,
346-353, 356
コーネル 289, 290, 296
コールリッジ 231
國領佳樹 24, 353
ゴッホ 177
コムリー 118, 119, 126
小山虎 113, 127
コント, オーギュスト 22, 20, 87, 298-
306, 308, 309, 311
近藤和敬 18, 23, 28, 131, 346, 352,
355, 356

さ

サイアート 156
佐金武 162, 170
坂部恵 74, 76, 77
サルトル 78, 158
澤幸祐 18, 23, 355
サンゴール, レオポール 278
サン=セルナン, ベルトラン 153

ジェイムズ, ウィリアム 33-35, 48, 49,
128, 222, 226, 228, 252, 286
シェーンベルク 181, 182, 186, 187
シェリング, フリードリヒ 22, 30, 222,
229, 231, 316-320, 322, 325, 326
シェリング, T. S. 149
ジジェク 291, 297
篠澤和久 127, 129
シモンドン, ジルベル 288, 289

ジャーニュ, スレイマン・バシール 278
シャープ, クリストイーナ 278
シャトーブリアン 181
ジャンケレヴィッチ, ウラジミール 83,
84, 86, 120, 126, 283
ジュディ, R. A. 286
ショーベンハウバー 187, 222, 229
ジョーンズ, ドナ 272, 279
シラー 228
シンクレア, マーク 111, 112, 121,
127, 159, 186, 187, 284, 353

スーレーズ, フィリップ 275, 276, 284
杉浦滋子 119, 127, 129
杉村靖彦 22, 24, 30, 158, 314, 343,
346, 348-353, 357
杉山直樹 61, 108, 111-113, 120, 121,
127, 129, 144, 145, 343, 347, 348
鈴木生郎 170, 171
鈴木泉 23, 348, 349, 352
鈴木貴之 24, 117, 353
ストーラー, アン・ローラ 264, 276,
281, 282
ストローソン, ゲーレン 161-163, 165,
229, 236
スピノザ 142, 143, 145, 175, 356
スピラーズ, ホーテンス 277, 278
スペンサー, ハーバート 39, 132,
142, 145

セゼール, エメ 278
ゼノン 109

ソーヴァネ, ピエール 90
ゾラ 183-186, 188
ソレル, ジョルジュ 278

た

タール, マチルド 23, 344, 353-354
ダーウィン, チャールズ 287, 288,
290-293, 296
高村夏樹 23, 353
田辺元 315, 316, 357
田村康貴 148, 188, 346, 351, 358
タルド, アルフレッド 273, 283
ダンディ 181, 187
タンヌリ, ジュール 17, 27, 38, 39,

62-75, 77
タンヌリ, ポール 72, 73

陳銀淑 182

ツエラー, エドワアルト 69

ティラー, チャールズ 186, 188,
230-232, 235, 283
ディルタイ 175
デイントン, バリー 18, 20, 21, 25,
29, 96, 97, 109, 110, 128, 162-164,
167, 170, 218, 236, 344, 351-353,
357

デーデキント 133

デカルト 133, 145, 239, 301, 345
デッペ, ソニーヤ 18, 27, 94, 111,
112, 126, 128, 352, 356

デネット, ダニエル 161, 162, 166,
170, 218

デモクリトス 89, 90

デューイ 229

デューリング, エリー 237-242, 244,
248, 250-252, 254, 255, 257, 258,
348-353, 355

デュエム, ピエール 66, 71

デュッセル, エンリケ 284

デュボイス, W. E. B. 286

デリダ, ジャック 289

デルブフ, ジョセフ 39, 65, 67-70

ドゥルーズ 30, 33, 45, 52, 130, 242,
247, 261, 287-289, 291, 293, 294,
348

ドゥンス・スコトウス 329

ドグルート, M.H. 156

戸坂潤 315

トルストイ 186, 188

トンプソン, マイケル 121, 125

トンプソン, ロバート・ファリス 285

な

ナイ, M. J. 72

永野拓也 23, 237, 238, 348, 351,
352, 355, 357

中畑正志 23, 355

中原真祐子 21, 29, 188, 190, 351,

352, 354, 356

ニーチェ 30, 90, 91, 222, 235, 298,
311, 348

西田幾多郎 22, 26, 314, 315-317, 323
-327, 337

西谷啓治 22, 158, 314-327

ニヨンゴ, タヴィア 265, 278

ネグリ, アントニオ 289, 292

ノヴァーリス 182, 183

納富信留 23, 352

は

パース 229

ハーツホーン 229

ハートマン, サイディヤ 277, 278, 285

パーフィット, デレク 163, 164, 170

ハイゼンベルク 228

ハイデガー 83, 90, 121, 129, 331,
335, 336, 339, 345

パイヨー, パンジャマン 72, 73

ハクスリー, オルダス 235

バシュラール, ガストン 78, 268, 269,
282

芭蕉 325

バス, オクタヴィオ 78

バスカル 22, 153, 156, 157, 299-305,
308, 309

バスカル, ミション 83

バディウ, アラン 131

バトラー, ジュディス 289-291, 296,
297

林禅之 170, 171

原健一 21, 26, 126, 188, 351, 353,
354

ハラウェイ, ダナ 288, 289

バラッド, カレン 288

バルトーク 182

バルメニデス 131

バンヴェニスト, エミール 90

ピカヴェ, エマニュエル 148, 352, 356

檜垣立哉 22, 24, 25, 30, 265, 287,
343, 346-352, 357

ビゲロー, ジョン 104

- ビシャ, グザウイエ 86, 87
ビニエイロ・ドス・サントス, ルシオ・ア
ルベルト 78
平井靖史 5, 8, 15, 18, 20-26, 28, 61,
63, 108, 111-113, 119, 121, 124,
126, 130, 158, 163, 170, 237, 238,
257, 258, 337, 338, 340, 342, 346,
347, 349-357
平賀裕貴 25, 264, 346, 350, 353,
354, 358
廣田昌義 203
- ファン, フランツ 276-279, 281,
285, 286
フィヒテ 318, 319
フーコー, マルセル 69
フーコー, ミシェル 289
フェヒナー, グスタフ・テオドール 18,
39, 64, 66, 67, 69, 70, 74, 77, 131,
354
福田敦史 170, 171
福元圭太 18, 25, 354
藤田尚志 8, 15, 18-20, 25, 26, 28, 63,
126, 128, 130, 158, 159, 163, 167,
170, 346-356
フッサー 71, 97, 109, 110, 113,
121, 314, 331, 332
ブトル, エミール 71-73
ブラウン, ジェイナ 265, 278
ブラッドリー, フランシス 33-36
プラトン 84, 85, 89, 133, 232, 290,
316
フラナガン, オーウェン 236
プランシュヴィック 145
プリゴジン, イリヤ 24
ブルースト 25
ブルーム, J. 149
ブルレ, ジゼール 82
ブレイエ, エミール 83, 84
ブレンターノ 333
フロイト, ジークムント 244, 291
プロウェル 141, 145
ブローデル, フエルナン 281
ブロード, C. D. 96, 108, 127, 128,
130, 235
プロティノス 27, 83-85, 174, 186, 187
ブロンデル 156
- ヘア, リチャード・マーヴィン 166, 170
ペイン, ティム 161, 162, 165, 166
ヘーゲル 128, 131, 142, 318
ベートーヴェン 177
ベーメ 325
ヘス, モーゼス 345
ベッカー, オスカー 182, 333
ヘラクレイトス 229
ペラン, ジャン 72, 73
ペラン, ドニ 21, 26, 126, 352, 353,
355
ヘルダー 181
- ボアズ 69
ボアンカレ, アンリ 71-73, 133
ボーウォール, シモーヌ・ド 290, 293
ボードレール 182, 183, 186
ポステラーロ, タノ 23, 26, 354
ホップズ 145
ホワイトヘッド 128, 130, 222, 229,
352
- ま
- マーラー 182
マールブランシュ 145
マインケ, アンヌ=ゾフィー 20, 353
マギルクリスト, イアン 21, 29,
218-233, 235, 236
マクタガート 18, 27, 28, 98, 109, 111
-117, 119-121, 124, 125, 127-130
マッキンタイア, アラスデア 161, 165,
170
マラーキー, ジョン 46, 62, 344,
347-348
丸岡敬和 24
- 三浦洋 23, 353
ミカエリアン, クルケン 20, 25, 344,
354-355
三木清 315
ミグノロ, ウォルター 284
三宅岳史 17, 27, 62-64, 328, 340,
346, 349, 351, 352, 356
ミュンスターバーグ 69
ミラヴァット, セバスチャン 12, 23,
237-244, 248-257, 349-352, 355,
357

村松正隆 23, 349, 351, 353
村山達也 20, 29, 158, 172, 186, 187,
203, 230, 346, 348, 349, 351-353,
356

メッツィンガー, トーマス 162
メルロ=ポンティ 78, 113, 175, 222,
268, 282, 284, 289, 292, 294, 295,
297

メンデルスゾーン 77

モース, マルセル 78
持地秀紀 218, 346, 358
モッセ=バスティド, ローズ・マリー 85
本吉勇 18, 354
モリエール 190-194, 198, 203
森田邦久 26, 353
森山徹 24, 354
モンテニュ 181, 187

や

山口尚 24, 354, 355
山口裕之 23, 355
山崎正和 82
山下尚一 82, 83, 92
山本荷弓 325

ユクスキュル, ヤーコプ・フォン 137

米田翼 23, 25, 26, 350, 354

ら

ライプニッツ 145, 175
ラヴェッソン 85-88
ラカン 287, 289, 291
ラクラウ, エルネスト 297
ラッセル 229, 352
ラマチャンドラン 233
ランジュヴァン, ポール 72, 73

リスト 181
リボー, テオデュール 38, 62, 64-69,
74, 76
リュイエル, レイモン 288

ルクレティウス 18, 27, 79, 80
ルゴネス, マリア 284,
ルソー 174, 181, 187, 203
ルヌヴィエ, シャルル 69, 86-88, 133,
134, 145
ルフェーヴル, アンリ 78
ルロワ=グーラン, アンドレ 289

レヴィ=ブリュール, リュシアン 270,
271, 348
レヴィナス 78
レウキッポス 90
レードル, セバスティアン 121

ロイス, ジョサイア 323

わ

ワーズワース 229, 231

事項索引

A-Z

agencement 289
Assemblage, Assembly 289
A グローバル同時性 117, 129
A 系列 98, 111-117, 128, 129
A 論者 95, 98, 102
BLM (Black Lives Matter) 281
B 系列 111-117, 128, 129
B 論者 95, 98, 99, 102
C 系列 114-117, 128, 129
modus obliquus 333
modus rectus 333
n 個の性 291
phase 118, 119, 129, 229, 319-321
Rechtfertigung 317, 319
VR 163, 164

あ

アイデンティティ 155, 161, 165, 232
アオリスト（相） 112, 113, 119
アクチュアルな意識 207, 211, 212, 217
アスペクト（時間論） 118-122,
124-129
新しい今（neue Jetzt） 332, 337
圧縮 50, 123, 130, 321, 325
圧力 33, 265, 266, 269, 270, 308
アナロジー 29, 172, 173, 175, 176,
180, 184, 185, 187, 203
ア・ブリオリ 48, 49, 52, 117,
133-135, 137, 166
アポステリオリなアブリオリ 61
暗黙のもの 53

闇 69, 246, 272
闇下 80, 151, 224, 244
刺激闇 65, 69
生きられた時間 266, 281, 282
異時間主義（allochronism） 279, 286
意思決定理論 19, 28, 148-150

異質性, 異質的 → 「多様体」も見よ
27, 37, 57, 60, 67, 100, 103, 139,
141-143, 264, 268, 319, 339
意志的行為 204-207, 216
異性愛的マトリックス 290
一元論 46
一次性質 12
一における多 33
一回性, 一回的 118, 132, 141-143
イデーのイデー 317, 322
イメージ 30, 320, 325, 326
意味論 175, 238
イメージ記憶 208-212
因果関係 164, 168
因果性 174
隱喻 248

動きのある社会 272, 273
薄い主体（thin subject） 163
右脳 219, 221-225, 227, 230,
233-235
運動図式 → 図式も見よ 204, 207-209,
212, 215, 249
運命 153, 336, 338, 339

永遠主義（者） 94, 99, 105, 107
永遠の今 321, 322, 324, 326, 336-339
映画的 97, 304
エージェンシー 288
エピソード（的人間） 161, 233, 234
エラン（説） 5, 6, 21, 54, 56, 58,
206, 215, 216, 274, 275, 296
エラン・ヴィタル 282, 283, 291, 294
エラン・ダムール 275, 276
円（ cercle） 238, 242-244, 246, 248-
251, 253-258, 260, 261
エングラム 248, 256
円錐, 逆円錐, 円錐図 204, 207,
209-213, 216, 237, 238, 241, 243,
247, 248, 250, 251, 254, 257, 269,
321, 325

- エントロピー 54, 91
オイリュトミー 84, 86
オーバーラップモデル 97
音楽 74, 82-85, 88, 99, 100,
224-226, 234, 258, 288, 297
- か
- 外延量 40, 45, 77
回顧的錯覚 163, 328, 329
解析 59, 71, 87, 133, 140
階層(性) 86, 124, 125, 174, 241,
246, 256, 261
回転 →自転も見よ 254, 257, 260
化学 89, 298, 305, 306, 309
科学主義 223
科学哲学 23, 66, 70-72
科学認識論 72, 73
格(case) 229
拡散 7, 243, 244
隔時性, 隔時の, 隔時化 122-124
拡張 7, 8, 24, 51, 124, 211, 242, 245,
251, 254-258, 261
拡張ベルクソン主義 8, 16, 17, 24, 75,
342
過去一般 244, 282, 321
仮構機能 168, 169, 271, 272
アフリカ的仮構作用 278
量 246
仮想的自己(virtual self) 161, 162
家族的類似性 234
カテゴリー 34, 49, 53, 97, 119, 134,
221, 234, 266
可能性 39, 253, 257, 258, 266, 270,
272, 328-334, 336, 339, 342
可能的行動 20
加法 44, 66-68, 70, 73, 77
間隔 52, 67, 87, 239, 240, 247, 254,
255, 257, 258, 267, 269, 272, 273,
280
感覺-運動(系), 感覺運動図式 →図式
も見よ 137, 205, 207, 209-213,
215, 216, 248, 269
感覺クロニア 163
感覺されるもの, 感覺されるべきもの 60
感覺質, 感覺的質 57, 123, 124
感覺の統合 48
- 歓喜 7, 307, 310
玩具 6, 308-311
完結(相) 18, 112, 113, 118-120,
122-124, 129, 130
間欠的(episodic) 161, 165
還元 30, 37-41, 48, 49, 60, 65, 71,
72, 88, 113, 137, 236, 250, 264,
266, 268, 275, 298, 328, 329, 332,
335, 337, 341, 346
還元主義 71, 72
閑数 20, 38, 53, 58, 66, 69, 89, 228
感性, 感性界, 感性的与件 34, 38, 39,
47-49, 51-53, 84, 91, 133, 234
環世界 137
間接的な知 34
完全律 115, 125
カント的制約 22
完了(相) 20, 25, 112, 113,
119-124, 128-129, 141
- 記憶の哲学 20
機械的 198, 199, 201, 233, 250, 307
機械論, 機械主義 6, 39-42, 46, 150,
248
幾何学 23, 39, 56, 71, 129, 133-135,
139, 140, 237, 239, 254, 260, 305,
306
(非) ユークリッド幾何学 70-73
記号(化) 35, 41, 42, 44, 54, 55, 60,
69, 71, 73, 117, 130, 133, 135, 138-
140, 145, 175, 223, 234, 304
気質(tempérément) 182, 183
帰納的推論 71
擬人化 254
基数性 38
規則(性) 81-83, 89, 171, 226
肌理細かさ 246
規約(主義) 22, 38, 59, 66, 69-72,
300, 301, 303, 304, 308-311
客体 33, 133
客観的偶然 71
共意識関係 164
境界交差 54
共感 20, 21, 32, 34, 60, 81, 82, 195
凝固 20, 54, 80
共時性, 共時的 112, 122-124, 164,
284, 286, 337-340, 342
凝縮 →収縮も見よ 26, 54, 123, 130,

- 249, 257, 268
共存 22, 23, 130, 133, 134, 138, 140,
156, 237, 238, 240-245, 247, 250,
253, 254, 256-258, 268, 269, 272,
278, 280, 283
強直性痙攣 279, 286
強度, 強度量, 内包量 17-19, 27,
36-58, 60-64, 66, 67, 69, 70, 73-75,
77, 150, 269, 270, 273, 274, 338
共同存在性 335, 336
共同体 154, 156
京都学派 158, 314-316
共-内在 34
局在(説) 21, 211, 256
機能局在論 233
曲率 75, 239
近代哲学 133, 298, 303
緊張(度) 17-19, 43, 44, 47, 55, 57,
60, 74, 75, 90, 94, 96, 99, 100, 199,
212, 239, 240, 242-246, 252, 255,
257-261, 269

クィア・スタディーズ 289, 290, 293
空 315, 326
空間化された時間 37, 112
空虚 56, 86, 135, 136, 240
偶然(性) 22, 30, 56, 71, 72, 155,
158, 248, 284, 294, 300, 303, 306,
307, 328-334, 336-339, 341, 343
クオリア 162, 163
クオンタ 33
具体的延長 →広がりも見よ 33, 47,
240
グローバルサウス 278
グローバルな同時性 28
クワリタス (qualitas) 45
クワレ (quale) 45

経営学 152
継起 39, 41, 55, 57, 67, 77, 95-97,
99-108, 110, 114, 121-123, 125,
133-135, 137, 138, 140, 221, 226,
238, 242-246, 248, 268, 269, 334,
335
経験の曲がり角 88
傾向(性) 19, 22, 35, 52, 94, 105,
152, 154, 155, 166, 208, 209, 211,
215, 222, 230, 233-235, 241, 268,
270, 272, 276, 280, 283, 343
経済学 152, 156
形而上学 20, 22, 29, 70, 71, 74, 75,
77, 94-99, 102-108, 128, 132, 142,
166, 219, 223, 231, 243, 249, 294,
298, 308, 329, 356, 357
芸術 20, 29, 84, 172, 173, 175-185,
187, 188, 190, 195, 202, 203, 219,
288, 297, 324
形相 →質料も見よ 32, 42, 46, 48, 141
計測 17, 18, 27, 28, 37, 40, 57, 59,
64-71, 73-75, 77, 131, 267, 268
形態 20, 21, 36, 46, 140, 160, 164,
213, 225, 229, 230, 276
形態 (Gestalt) 234
形態論 119
系列 18, 39, 83, 98, 111-118,
120-122, 124, 125, 128-130, 136,
166, 167, 179, 256, 331
系列性 28, 111, 112, 118, 121,
125, 130
ゲーム理論 150
結晶(化) 80, 151, 224, 244
決定木 28, 148, 151, 153
決定論 19, 71, 72, 131, 143, 226,
291, 295, 296, 328
原印象 (Urimpression) 110, 331,
332
言語 21, 32, 33, 50, 80, 90, 119, 120,
122, 129, 148, 149, 151, 166, 175,
221, 222, 224, 225, 230, 234, 290,
296, 304, 345, 346
言語学 112, 118-120, 122, 129
顕在化 238, 241, 243, 246, 247, 251,
253-259, 270, 273, 283
現在主義, 現在論者 94, 98, 104, 107,
108, 124, 268, 337
顕在的 60, 101, 104, 110, 150, 238,
240, 241, 244-247, 250, 252, 255,
256, 258-260, 270, 272
原子(論) 7, 34, 90, 309
原始人 167, 168, 272, 307
現実化 (réalisation) 187, 229, 231,
243-245, 247, 253, 254, 269
現実界 289-291, 297
現象界 73, 322
現象的自己 160, 162-165, 167
現象論 71, 268, 269

現前 35, 167, 168, 227, 234, 235, 241, 254, 257, 261, 269, 332, 335, 336
源泉 (Urquelle) 332
源泉性 (sourcehood) 186
原創造 (Urschöpfung) 332
現働性 51

語彙アスペクト 118
高次経験論 33
公準 68, 77
構成主義 18
構成的暴力 274
構築主義 30, 290, 296
合理的選択理論 149, 156, 157
コーラ (khora) 290
ここといま (hic et nunc) 331
心の理論 234
個人様式 182, 183
個性 21, 169, 178-184
個体性 37, 168, 169, 181, 188
古代哲学 303
固定性 39, 224
語用論 234
これ性 317
こわばり 硬直性 194, 200
根本的経験論 33

さ

最小可知差異 67
最小限自己 (minimal self) 163
差異の哲学 287
算術 23, 69-71, 133, 135, 139, 140
三状態の法則 298, 299, 303, 311

ジェンダー論 290, 291, 293, 295
自我 19, 21, 123, 150-152, 155, 158-160, 165-167, 172, 179, 182, 190-192, 195, 197, 199, 205, 206, 246, 279, 318-324
根底的自我 165, 166, 169, 192
寄生的自我 165, 166, 169, 192, 201
自覚 234, 314, 315, 317, 318, 321, 323-325, 328, 329
弛緩 56-58, 60, 74, 75, 214, 239, 240, 242, 246, 252, 255, 259, 261, 274, 282

時間経験 18, 20, 94-96, 99, 101, 105, 107, 128
時間形而上学 27, 97, 99, 102, 105
時間構造 25, 99, 124
時間スケール 113, 124, 130, 163
時間的延長 18, 27, 28, 94, 98, 101-103, 105, 107, 108
時間の倫理 345
時間や時代を共にしていること (coevalness) 279
自己愛 81, 174
自己意識 86, 162, 165
志向性, 志向的 34, 161, 162, 331, 333
自己客觀化 317, 320
自己代表的体系 (self-representative system) 323
自己表現 20, 153, 155, 181, 182, 184, 187
時熟 336, 339
時制 18, 27, 28, 94-99, 102, 104-108, 110-114, 120-122, 124, 125, 128, 129, 278
自然科学 5, 133, 231, 232, 245
自然主義 132, 137, 183, 288
自然発生 (Urzeugung) 332
思弁的実在論 288
実在, 実在性, 実在的 19, 20, 30, 34, 36, 37, 41, 43, 44, 46-49, 51, 53-55, 58, 59, 61, 95, 97, 102-107, 111, 117, 128, 130, 133, 136, 137, 139, 141, 145, 150-152, 155, 162, 166, 195, 222, 225, 226, 229, 239, 240, 245, 294, 303, 304, 317, 319, 325, 326, 336-338, 342
実在論 71
実証的 298, 301-304
実証科学 298, 305
実証哲学 30, 298, 299
質的異質性 100
質的多様性／多様体 →多様体を見よ
質的微分 →微分, 積分も見よ 74
実動化 (effectuation) 243, 245
質料 32, 42, 46, 48, 49, 81
質料形相論 42, 48
自転 →回転も見よ 21, 212, 213, 216
自動的再認 208
シリフィアン 291
シミュレーション主義 20

- 射影 129
社会学 298, 299, 303, 305
社会的想像 270, 283
社会論 22, 302, 303, 309
写像 138-140
自由 6, 20, 42, 56, 59-61, 66, 70, 71, 80, 87, 88, 132, 143, 148, 152, 153, 155-157, 165-167, 172, 173, 176, 179, 180, 183, 185, 186, 190-192, 201, 202, 293, 295, 296, 304, 309, 319, 326, 328, 329, 337-339
自由意志 20, 29, 38, 143, 148, 150-152, 186, 295, 328, 329
自由行為 21, 29, 165, 172-178, 180, 184, 186, 190, 191, 197, 202-204, 318-321, 323, 324, 345
習慣 37, 54, 58, 86, 88, 119, 157, 246, 264, 265, 269, 271, 273, 276, 286, 300-303, 307, 311
周期(的) 25, 81, 82
集合論 71, 133, 135, 136, 140
修辞的 176, 184
収縮 →凝縮も見よ 50, 55, 57, 74, 90, 91, 211, 213, 217, 228, 243, 244, 246, 247, 249, 255, 258
集中 214-216, 252, 324
習得的知覚 44, 63
主観的時間 18, 96
熟慮 19, 71, 150, 152-154
主体 33, 35, 91, 133-135, 142, 161, 163, 165, 204-206, 216, 266, 285, 286, 291, 293, 296, 332
主体的行為 206, 216
主知主義 34, 46
受容性 135
純粹記憶 6, 20, 26, 30, 47, 237, 249, 320, 321, 325
純粹経験 34, 35, 317, 323
純粹持続 22, 27, 30, 47, 60, 63, 77, 131, 140, 158, 314-325, 334, 336
純粹知覚 47, 252, 320
象徴(主義) 37, 39, 73, 86, 149-151, 195, 255
象徴界 290
情動 21, 44, 67, 169, 186, 221, 234, 268, 274, 276-278, 280
触発 58, 133, 195, 201, 202, 297, 331, 332
植物 228, 305
序数 38, 39, 62
女性性 287, 289
進化(論) 6, 19-21, 30, 46, 71, 86, 128, 136, 141, 142, 150, 155, 168, 220, 221, 223, 231, 272, 283, 287, 290-292, 295, 296, 298, 308, 311, 326, 344
人格(性) 19, 28, 47, 123, 124, 130, 153, 155, 160, 161, 163, 165-169, 190, 192, 197, 199, 201-203, 205, 215, 216, 329, 344
蜃氣楼 6, 308-311
神経科学 →脳科学も見よ 24, 218, 219, 227, 232
神経系 75, 206, 207, 217, 255
人工知能 16, 24
人種 29, 30, 264-267, 270, 271, 277-281, 286
深層 →深みを見よ
身体の記憶力 207-210, 212-216
心的 17, 34, 37, 47, 53, 55, 74, 130, 154, 209, 212-216, 243, 253, 259, 260, 292
心的エネルギー 75, 214, 215
心的結晶化 151
心的図式 53
振動 32, 58, 60, 88, 90, 91, 124, 249, 260
信念 57, 149, 163, 164
神秘, 神秘家, 神秘主義 6-8, 54, 56, 65, 137, 142, 162, 168, 186, 187, 230, 253, 259, 270, 273, 276, 307
新ベルクソン主義の見解 21
進歩 6, 8, 22, 30, 150, 269, 272, 274, 277, 299-304, 307-311
真理 71, 91, 104, 219, 223, 298, 303
心理学 →精神物理学も見よ 7, 18, 23, 39, 41, 43, 55, 59, 63, 74, 75, 158, 163, 210, 211, 260, 293, 309
神経心理学 223, 234
生理学的心理学 64, 65
実験心理学 131
人類学 23, 288
心靈科学 7, 310
新ロック主義(Neo-Lockeanism) 163
随伴現象説 72, 268

- 数学 23, 28, 50, 55, 58-60, 66, 71-74, 87, 89, 106, 131-135, 137-141, 144, 145, 153, 237, 240, 298, 299, 302, 304-306, 331
スケール 15, 20, 113, 124, 125, 130, 163
マルチ(時間)スケール 124, 125, 130, 163
図式(論) →運動図式、感覚運動図式も見よ 32, 45, 47-49, 53, 55, 57, 134, 135, 234, 268, 291, 331
ストア派 338, 339
スナップショット 97, 259
スペティウム(spatium) 18, 36, 45, 58, 61
スピリチュアリズム 305
スペクトラム 19

生(命)の哲学 30, 83, 273-275, 283, 290, 291, 297, 310
星雲 246, 247, 251-254, 256, 257, 261
正義 154, 221, 302
生気論 131, 166, 293, 294
政治学、政治哲学 152
生殖 21
精神医学 16, 23, 24, 218
精神異常(alienation) 214
精神科学 7, 306, 309
精神物理学、心理物理学 →心理学も見よ 18, 39, 40, 41, 64, 65, 66, 69-71, 73, 74, 77, 131, 304
精神分析 22, 78, 287, 289-291
生態学 289, 291
生態学的知覚論 18
性的身体 22, 290
生物学 6, 22, 23, 24, 29, 163, 164, 231, 240, 253, 270, 289-291, 296, 298, 305, 306
生への注意 274, 320
生理学 86, 87, 215, 248, 304, 309
積分 →微分も見よ 58-60, 67, 89, 133
絶対者 36, 317, 318, 322
絶対的観念論 30, 316, 317, 322
セリー 142, 143
選好 149, 155, 156
潜在性、潜勢態 40, 43, 50, 60, 84, 121, 124, 150, 152, 158, 225, 229, 237, 238, 241-245, 247, 248, 250, 251, 253, 255-258, 261, 262, 270, 272, 278, 283, 293, 294, 304, 318, 320, 321, 325
潜在的多様体 43
織細の精神 305
全順序 18, 28, 115, 116, 118, 124, 125, 129
戦争 6, 7, 274-276, 283, 284, 306-308, 310

想起 20, 134, 243, 246, 257, 269, 270
総合、総合 32, 49, 130, 134, 135, 227, 234, 242, 249, 261, 298, 319, 337
総合判断 134
相互外在 33, 239, 242
相互浸透 7, 33, 77, 85, 101, 102, 121, 124, 125, 142, 143, 156, 164, 205, 224, 226, 240, 254, 268, 280, 309, 334, 340
創造 21, 52, 73, 83, 124, 141, 150, 165, 186, 187, 206, 216, 228, 230, 235, 238, 245, 253, 258, 265, 270, 274, 278, 283, 284, 294, 303, 311, 315-317, 329, 331, 332, 334, 338, 340, 343, 344
相対主義 20
相対論 75
相転移 54
測定 38-44, 51, 53, 66, 72, 75, 91, 228, 229, 272
存在論的 19, 86, 97, 105, 110, 112, 137, 175, 187, 247, 251, 253, 266, 268, 269, 293
存在論的転回 288

た

- ダーウィニズム 292, 294
ダイアド 123-125
代数 71, 133, 140
怠惰 272, 277
タイプ 97, 221
多形的(polymorphe) 245
多元的人類 276
他行為可能性 186
他者 156, 160, 190, 199, 278, 279,

- 286, 307, 333, 334, 336-338, 342
 他性 335
 多様体, 多様性, 多数性 (*multiplicité*)
 18, 19, 28, 33, 43-46, 57, 60, 77,
 88, 94, 95, 99-103, 105, 107, 108,
 138, 139, 265, 269, 270, 181, 197,
 204, 241, 259, 261, 267, 294, 303,
 322
 異質的 19, 43
 質的 28, 33, 44, 46, 60, 77, 94,
 95, 99, 101-103, 105, 107, 322
 現実的 43
 潜在的 43
 多様な仕方で局所的 (*multi-localisé*)
 245
 単位 (性) 66, 68, 70, 83, 123, 124,
 130, 135-137, 139, 140, 145,
 247-250, 258
 男性中心主義 289

 遅延 20, 273, 344
 知覚の予料 44, 48, 49, 77
 注意的再認 208, 209, 214, 250
 中動態 45, 63
 超越論性, 超越論的 33, 47, 49, 317,
 319, 320, 323-326
 長期持続 266, 267, 281
 調子 78, 241-243
 直観 7, 21, 29, 48-54, 57-61, 94-96,
 99-105, 122, 133-136, 149, 168,
 223-225, 227-230, 267, 315, 320,
 324, 332-336
 直観主義 141

 通時的 (diachronic) 15, 161,
 163-165, 284
 つつある 47, 59, 97, 119, 120, 244,
 264, 323, 331, 332
 遂行され (為され) つつある行為 (*l'action s'accomplissant*) 120, 318,
 319
 終わりつつあるはずみ 55

 ディアスボラ 90, 285
 定義不可能 20, 66, 172, 173,
 175-180, 187, 190
 程度の差異 271, 272, 274, 291, 320
 適応 71, 204-207, 211, 212, 215,
 217, 281, 291
 デジヤヴュ 249
 手続き的 18
 天文学 71-73, 298, 303

 度合い 19, 44, 74, 75, 165, 213, 217,
 239, 240, 242-247, 254, 259, 261,
 272, 273
 統覚 134
 統語論 234
 等質性, 等質的 → 同質も見よ 27,
 37-39, 45, 47, 48, 51, 56, 57, 60,
 103, 135-141, 143, 239, 251, 260,
 268
 同質性, 同質的 → 等質も見よ 40,
 65-69, 77, 334
 同時の直観 336
 淘汰 71, 288, 291-293
 撃着語法 32, 37, 124
 道徳 (原理) 21, 82, 84, 161, 166,
 167, 169, 199, 200, 203, 232, 305
 動物主義 163, 164
 動物性 289
 動物的生 86, 87
 特異性 23, 132, 141-143, 169
 閉じ (られ) たもの 6-8, 21, 54, 167,
 169, 209, 266, 269, 270, 272,
 306-310, 315
 トピック時間 129
 トライアド 18, 122, 124
 トラウマ 169, 344

な

 内在主義 72, 279
 内包量 → 強度も見よ
 流れ → 流動も見よ 35, 80, 90, 111,
 112, 115, 120, 121, 125, 129, 130,
 164, 224, 226, 227, 229, 231, 233,
 240, 249, 266-269, 321

 肉 163, 178, 184, 294, 295, 310
 二元論 27, 33, 37, 41, 43, 46, 60, 74,
 103, 105, 270
 二次性質 12
 ニヒリズム 315, 326
 ニューマテリアリズム (新唯物論) 22,
 30, 288, 289, 296, 297, 365

- ニューロン 220
認識論 20, 29, 71, 72, 134, 219, 224, 231
認知科学 16, 18, 225
- ヌーメノン 279
- ネグリチュード 264, 278
熱力学 24, 54, 59
- 脳科学 → 神経科学も見よ 21
脳半球 220, 221, 223, 224, 230, 233, 234
- は**
- 倍音 21, 244
媒介, 無媒介 32, 35-37, 39, 49, 50, 164, 292, 296
白人至上主義 279
爆燃 61
把持 97, 101, 102, 110
発出 20, 174, 186, 191, 197, 205, 329
波動 90, 228
波動関数 228
パラドクス 29, 121, 125, 128, 225, 227
ゼノンのパラドクス 124, 226
半開き 270, 283
反作用 56, 207-211, 257
汎心論 23, 74, 166, 229
汎神論 74
反省 34, 43, 94, 168, 271, 321-323, 325
反対称律 115, 124, 125
反復 32, 45, 100, 141, 196-199, 201, 257, 269, 272, 275, 276, 279, 290, 330, 339
- 非延長的 32, 37, 38, 46-48, 56, 75, 103, 104, 108, 124, 322
美学 84, 175, 187, 195
光 65, 68, 77, 90, 241, 249
非局所的 (non local) 245, 253, 254
非決定 (論) 19, 296
非線形 80, 266, 270, 278
被知覚態 49
必然性 6, 61, 72, 134, 152, 329, 330, 333, 334, 338, 339
- 被投性 336
非人間主義 288
非人称 183
微分 → 積分, 質的微分も見よ 58-60, 66, 67, 69, 70, 74, 77, 87-89, 133
微分の連続体 59
非ユークリッド幾何学 → 幾何学を見よ
表現 (exprimer/expression), 表現主義 20, 106, 148, 151, 153, 155, 158, 160, 164, 165, 167, 172, 173, 175, 179-184, 187, 190-192, 195, 199, 204-206, 231, 234, 295, 296, 319, 321, 329
- 拍子 81-86, 88, 89, 91
表層, 表面 → 深みも見よ 34, 42, 46, 56, 65, 166, 167, 192, 201, 202, 205, 206, 240, 247, 255, 273, 325
- 病理 (学) 249, 273, 280
開かれた／開いたもの 94, 167, 169, 179, 220, 226, 266, 269, 270, 278, 306-308, 310, 315, 322, 343
広がり (extension, extensio) → 具体的延長も見よ 45, 74, 75, 239
- ファルス・ロゴス中心主義 289, 291
フェミニズム 22, 29, 30, 287-290, 292, 295-297
ニューマテリアリズム・フェミニズム (新唯物論的フェミニズム) 288, 365
- 不確定性原理 228
不可入性 137
深み, 深層 (の自我) 19, 34, 42, 45, 56, 58, 84, 88, 164, 182, 188, 205, 206, 231, 279, 304, 324, 336
複雑状態 43, 44
腐食, 腐敗 266, 271, 274, 276, 277, 282
- 二つの唇 291
物質 7, 19, 20, 23, 29, 45, 47, 53-58, 75, 77, 81, 90, 91, 123, 137-139, 145, 163, 210, 211, 213, 224, 225, 227-229, 239, 240, 242, 253, 264, 266, 268, 269, 282, 283, 290-296, 305-309, 337
- 物理学 24, 55, 66, 71, 72, 133, 137, 139, 226, 228, 229, 236, 240, 303-306

- 物理主義 163, 164
 普遍数学 302
 ブラック・スタディーズ 278
 分化 21, 49, 71, 292, 294, 296
 分割可能 38, 45, 47, 59, 91, 100,
 240, 268
 分析（的知性） 32, 34, 35, 43, 59, 94,
 96, 99, 101, 102, 107, 223, 224,
 227, 234
 分析系, 分析哲学 16, 18, 20, 23, 24,
 26, 28, 97, 111, 160, 166, 167
 分離脳 29, 219, 220
 分裂 57, 199, 213, 275, 276, 324
- 並進 21, 212, 213, 216, 217
 平面 237, 238-247, 250-255,
 257-259, 278, 320, 321, 324, 325
 並列 114, 116, 117, 140, 227
 弁証法 78, 83, 142, 337, 338
 変容 16, 19, 29, 30, 49, 90, 155, 156,
 167, 204, 235, 315, 316, 326
- 放心 194, 195, 246, 252
 法則 32, 50, 54, 58, 59, 65-67,
 71-73, 80, 87, 225, 298, 299, 303,
 309, 311
 法的規制 7
 亡靈 →幽靈を見よ
 ポストコロニアル 264, 278, 279
 ポスト人間主義 288
 ボディ・イメージ (body image) 234
 本性の差異 19, 45, 244, 270-272,
 274, 291, 292
 本能 21, 299, 302
 翻訳 37, 44, 50, 71, 72, 138, 322
- ま**
- 間合い 86
- 未開（心性, 人） 270-273, 276, 279,
 284
 未完了（相） 17, 112, 113, 119-124,
 129, 257
- 無, 無いこと 314, 315, 323-326, 328-
 330, 332-334, 341
 無意識 58, 80, 145, 223, 238, 241
- 243, 248, 253, 260, 265, 268-270,
 291
 無限小（解析） 58, 59, 69, 87, 88
 無限分割 39, 47
 無向順序 115, 117
 無際限 33, 307, 308
 無時間的 88, 117, 141
 ムシケー 85
 無時制 278
 夢想 320, 321, 325
 無秩序 39, 89, 133, 271
 無の鏡 325, 326
- 命題 68, 175, 179, 328
 メタ時間 117, 118, 121, 130
 メタ哲学 21
 メタ倫理学 166
- 目的性, 目的論 270, 328, 339
 物語（的自己） 160-165, 167, 171,
 195, 201, 202, 222, 233, 235
 物自体 133, 134, 141-143, 145
 模倣, 真似る (mimer) 80, 177, 209,
 215, 275
- や**
- 唯物論 22, 30, 137, 248, 288, 289,
 294-297
 優雅, 優美 56, 58, 61, 81, 82
 有機組織, 有機体, 有機的 40, 77, 87,
 88, 205, 206, 211, 226, 231, 248,
 259, 283, 305
 有限主義 134, 145
 有向順序 115
 有用（性） 20, 53, 60, 72, 88, 89,
 102, 157, 160, 208, 223, 236
 幽靈, 亡靈 206, 274, 277
 夢 58, 81, 210, 211, 214, 216, 252,
 325
- 溶解する力 271
 容器 - 内容物関係 268
 様相（概念） 22, 30, 83, 227, 328,
 330, 332-334, 337, 341
 容中律 301
 予見不可能 16, 21, 134

利得行列 28, 148, 153
 力学 71, 72, 142, 152, 168, 300, 305
 離散（的） 57, 86, 112, 222,
 246-249, 256
 理神論 232
 リズム 18, 27, 30, 60, 78-92, 234,
 242, 247, 260, 268, 269, 271
 理性 166, 182, 219, 225, 299-302,
 316
 離接（的） 334, 341
 理念的（極限, 性質, 存在, 発生） 36,
 53, 71, 72, 130, 187, 239, 316, 317,
 342
 リハーサル 135, 137, 143
 粒子 223, 228
 流体の身体 291, 296
 流動（性） →流れも見よ 18, 35, 80,
 269, 273, 277, 281, 324, 335, 336
 流動的な概念 60
 流動（流れ）の同時性 129, 335, 336
 流率（fluxion） 88
 量子飛躍 54
 量子力学 228, 288
 量的 量的アプローチ, 量的認識

17, 36, 38-41, 44, 47, 50, 59, 60,
 75, 84, 101, 110, 118, 138, 139
 臨終の覚醒（terminal lucidity） 228
 倫理学 166, 288, 294
 類型（化） 29, 195, 246, 248, 270
 礼節 27, 79-81
 歴史 16, 29, 30, 104, 140-142, 167,
 168, 172, 184, 185, 192, 199, 201,
 220, 227, 229, 248, 267, 279, 281,
 286, 298, 311, 314, 315, 326, 339
 連合（主義） 41, 43, 48, 209-211,
 213, 252, 257, 260, 261
 連續性 55, 59, 67, 71, 72, 74, 79, 87,
 91, 95, 99, 105, 107, 108, 142, 163,
 164, 224, 245, 266-269, 331, 337,
 339
 連續体 59, 87, 133, 266-268
 連續量 67
 労働 78, 273, 277
 濾過 236, 249, 250, 255, 260
 口ボティクス 16, 24
 論理主義 316, 318

●著者紹介（掲載順）

アレッサン德拉・カンポ (Alessandra Campo) 1985年生まれ。ラクイラ大学の研究員。専門はプロセス哲学（ベルクソン、ホワイトヘッド、ドゥルーズ）、カント哲学、精神分析学。主な業績に S. Gozzano との共編著 *Einstein vs. Bergson: an enduring quarrel on time* (De Gruyter, 2022年)、*Fantasma e sensazione. Lacan con Kant* (Mimesis, 2020年)、*Tardività. Freud dopo Lacan* (Mimesis, 2018年) がある。

三宅岳史 (みやけ・たけし) 1972年生まれ。香川大学大学院創発科学研究科・教育学部教授。専門は近現代フランス哲学、科学哲学・科学史。主な業績に『ベルクソン哲学と科学との対話』(京都大学学術出版会、2012年)、"Bergson and the Rise of 'the Sciences of Memory'" (Bergson's Scientific Metaphysics, Bloomsbury, 2023年)、共編著『現代フランス哲学入門』(ミネルヴァ書房、2020年) がある。

合田正人 (ごうだ・まさと) 1957年生まれ。明治大学文学部教授。専門は思想史。最近の業績に「シャルル・ルヌヴィエとヘルマン・コーエン——新批判主義の交錯と分岐」(『明治大学人文科学研究所紀要』2023年)、共著『生・存在・リズム——ベルクソンとハイデガー』(知泉書館、2021年) がある。

ソーニヤ・デッペ (Sonja Deppe) 1979年生まれ。ドイツ研究コミュニティ (DFG) 研究グループ「医学、時間、そして良い人生」の科学コーディネーター及びゲッティンゲン大学医学部倫理学および医学史研究所研究助手。専門は形而上学、心の哲学、倫理学、分析哲学と大陸哲学。主な業績に *Die Struktur von Zeit. Eine mit Bergson entworfene Metaphysik als Ausweg aus dem McTaggart'schen Dilemma* (Schwabe Verlag, 2022年)、*The Mind-Dependence of the Relational Structure of Time (or: What Henri Bergson Would Say to B-theorists)* (Kriterion 30 (2), 2016年) がある。

平井靖史 (ひらい・やすし) 1971年生まれ。慶應義塾大学文学部哲学専攻教授。専門はベルクソン、ライプニッツなど近現代哲学、時間と心の哲学、記憶の形而上学。主な業績に『世界は時間でできている』(青土社、2022年)、*Bergson's Scientific Metaphysics* (編著、Bloomsbury, 2023年)、ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』共訳 (ちくま学芸文庫、2002年)、ベルクソン『時間観念の歴史』共訳 (書肆心水、2019年)、ベルクソン『記憶理論の歴史』共訳 (書肆心水、2023年) がある。

近藤和敬 (こんどう・かずのり) 1979年生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科未来共生学講座准教授。専門は現代哲学、エピステモロジー、実証主義の哲学。主な業績に『人類史の哲学』(月曜社、2024年)、『〈内在の哲学〉へ——カヴァイエス、ドゥルーズ、スピノザ』(青土社、2019年)、『カヴァイエス研究』(月曜社、2011年) がある。

エマニュエル・ピカヴェ (Emmanuel Picavet) 1966年生まれ。パリ第1大学パンテオン・ソルボンヌ (UFR 10 & ISJPS, UMR 8103)、法學・哲學研究所 (Institut des Sciences Juridique et Philosophique de la Sorbonne) 応用倫理学教授。専門は応用倫理学、意思決定分析、経済哲学、社会科学の哲学、政治哲学。主な業績に

La Revendication des droits (Classiques Garnier, 2011年、2021年)、Kelsen et Hart : la norme et la conduite (PUF, 2000年) がある。

藤田尚志（ふじた・ひさし）1973年生まれ。九州産業大学教授。専門はフランス近現代哲学。主な業績に『ベルクソン 反時代的哲学』(勁草書房、2022年)、共著『ベルクソン思想の現在』(書肆侃侃房、2022年)、Mécanique et mystique. Sur le quatrième chapitre des Deux Sources de la morale et de la religion (Olms, 2018年) がある。

村山達也（むらやま・たつや）1976年生まれ。東北大学大学院文学研究科教授。専門は近現代のフランス哲学及び現代倫理学。主な業績に “Bergson’s Arguments for Matter as Images” (Archiv für Geschichte der Philosophie, 2023年オンライン先行公開)、“Bergson on Virtuality and Possibility” (Mark Sinclair and Yaron Wolf 編、The Bergsonian Mind, Routledge, 2022年)、「人生の意味について語るときには私たちを語らせるもの」(『現代思想』2024年3月号、特集：人生の意味の哲学、青土社、2024年) がある。

中原真祐子（なかはら・まゆこ）1984年生まれ。江戸川大学基礎・教養教育センター講師。博士（文学）。専門はベルクソンを中心とする哲学と倫理学。主な業績に「理由なき行為としての自由——ベルクソン『試論』における行為と自我との関係をめぐって」(『フランス哲学・思想研究』第26号、2021年)、「テキストマイニングから探る「大正期ベルクソンブーム」の内実」(共著、『じんもんこん2022論文集』、2022年) がある。

天野恵美理（あまの・えみり）1984年生まれ。高崎経済大学地域政策学部特命助教。専門はベルクソンを中心とする近現代哲学。主な業績に “Deux schémas de mouvement chez Henri Bergson : autour de sa théorie de la mémoire” (Tetsugaku : International Journal of the Philosophical Association of Japan, vol. 8, 2024年)、「ベルクソン『物質と記憶』における再認の回路」(『アルケ』第31号、関西哲学会、2023年)、「持続と再認——ベルクソンにおける第三種の再認について」(『哲学』第74号、日本哲学会、2023年) がある。

バリー・デイントン（Barry Dainton）1958年生まれ。リバプール大学哲学教授。専門は形而上学と心の哲学。科学技術の進歩の哲学的含意にも関心がある。思弁的未来センターの共同ディレクター。主な業績に Stream of Consciousness (第2版、2006年)、The Phenomenal Self (2008年)、Time and Space (第2版、2010年)、Self (2014年) があり、最近の共編著に Minding the Future : Artificial Intelligence, Philosophical Visions and Science Fiction (2021年) がある。

エリー・デューリング（Elie During）1972年生まれ。パリ・ナンテール大学准教授。専門は形而上学と現代フランス哲学。主要な業績に Henri Bergson, Le Souvenir du présent et la fausse reconnaissance (エリー・デューリング編、PUF, 2012年)、“Coexistence and the Flow of Time” (平井 靖史 編、Bergson’s Scientific Metaphysics, Bloomsbury, 2023年)、Glenn Gould (アラン・ブレックスとの共著、Editions de la Philharmonie, 2021年) がある。

セバスチャン・ミラヴェット（Sébastien Miravete）1981年生まれ。哲学博士（ボワチエ大学、laboratoire MAPP）、認知心理学博士（モンペリエ III 大学、laboratoire

EPSYLON)。ポワチエ大学 MAPP 研究室とモンペリエ III 大学 EPSYLON 研究室で哲学と認知心理学の研究者として活動。主な業績に Bergson structuraliste (Les Presses du réel, 2023年)、Les présocratiques ou les trois structures primaires de la rationalité (Ellipses, 2023年) がある。

永野拓也（ながの・たくや）1967年生まれ。熊本高等専門学校熊本キャンパスリベラルアーツ系教授。博士（文学）。専門はベルクソン哲学研究。主な業績に「関係と偶然——『物質と記憶』をめぐる「持続」解釈の試み」（『ベルクソン『物質と記憶』を再起動する——拡張ベルクソン主義の諸展望』、書肆心水、2018年）、「ベルクソンと特殊相対性理論——物理学的表象と形而上学的実在性」（『合理性の考古学』、東京大学出版会、2012年）がある。

アリア・アル＝サジ（Alia Al-Saji）1971年生まれ。マギル大学哲学科 James McGill Professor。専門は現象学、批判的人種哲学、フェミニスト理論。主な業績に “Decolonizing Bergson : The Temporal Schema of the Open and the Closed” (Andrea Pitts and Mark Westmoreland 編、Beyond Bergson: Examining Race and Colonialism through the Writings of Henri Bergson, State University of New York Press, 2019年)、“Hesitation as Philosophical Method – Travel bans, colonial durations, and the affective weight of the past” (Journal of Speculative Philosophy, Vol. 32, no. 3, 2018年) がある。

檜垣立哉（ひがき・たつや）1964年生まれ。専修大学文学部教授、大阪大学名誉教授。専門は現代フランス哲学と近代日本思想。主な業績に『ベルクソンの哲学——生成する実在の肯定』（講談社学術文庫、2022年）、『バロックの哲学——反理性の星座たち』（岩波書店、2022年）、『生命と身体——フランス哲学論考』（勁草書房、2023年）がある。

安孫子信（あびこ・しん）1951年生まれ。法政大学名誉教授。専門はフランス哲学と思想史。主な業績に共著『自然観の転換と形而上学——西洋古代から現代まで』（1988年、紀伊國屋書店）、共編著『ベルクソン読本』（2006年、法政大学出版局）、共編著『デカルトをめぐる論争』（2013年、京都大学学術出版会）がある。

杉村靖彦（すぎむら・やすひこ）1965年生まれ。京都大学教授。主な業績に *Témoignage et éveil de soi – Pour une autre philosophie de la religion* (PUF, 2023年)、“Transplanter le bergsonisme dans le « lieu du néant », Bergson et « l’École de Kyoto »” (Bergsoniana, n. 3, 2023年)、編著『渦動する象徴——田辺哲学のダイナミズム』（田口茂・竹花洋佑と共に、晃洋書房、2021年）がある。

シモン・エベルソルト（Simon Ebersolt）1987年生まれ。フランス国立東洋言語文化大学（Inalco）講師。専門は日本哲学と第一哲学。主な業績に *Contingence et communauté. Kuki Shūzō, philosophe japonais* (Vrin, 2021)、“The Present of Difference and the Present of Identity. Kuki’s Conception of Time” (Tetsugaku : International Journal of the Philosophical Association of Japan, Special Theme : ‘Japanese Philosophy’, vol. 3, 2019) がある。

●訳者紹介（掲載順）

濱田明日郎（はまだ・ともろう）1995年生まれ。在野研究者。2024年京都大学で博士（人間・環境学）取得。専門はベルクソン哲学。主な業績に「ベルクソン『創造的進化』による生命進化の「心理的解釈」の意義」（日本哲学会『哲学』75号、2024年）、「中後期ベルクソンにおける「創造」概念の追跡——『道徳と宗教の二源泉』に至るベルクソニズムの心理学的解釈の試み」（日仏哲学会『フランス哲学・思想研究』28巻、2023年）がある。

木山裕登（きやま・やすと）1987年生まれ。学習院大学他非常勤講師。専門は19世紀フランスの哲学・心理学。主な業績に「ベルクソン「意識の諸平面」概念の心理学的背景」（『論集』32、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2013年）、ベルクソン『記憶理論の歴史』（共訳、書肆心水、2023年）がある。

田村康貴（たむら・こうき）長崎大学多文化社会学部助教。専門は近現代フランス哲学と倫理学。主な業績に「ベルクソン『二源泉』第3章における神秘主義と神経症」（『フランス哲学・思想研究』第24号、2019年）、「ビュイッソンの道徳教育論における直観の問題とデュルケーム」（『フランス哲学・思想研究』第28号、2023年）がある。

持地秀紀（もちぢ・ひでき）1989年生まれ。上智大学ヨーロッパ研究所特別研究員。専門はベルクソン哲学と美学。主な業績に「ベルクソン哲学におけるポイエーシス論の展開——詩人から哲学者、そして神秘家へ」（『美学』第260号、2022年）、「ロゴスとエラン——プロティノスの発出論とベルクソンの進化論」（『新プラトン主義研究』第19号、2019年）、「ベルクソン講義録『時間観念の歴史』における「心理学者」としてのプロティノス解釈」（『新プラトン主義研究』第17号、2017年）がある。

平賀裕貴（ひらが・ひろたか）1983年生まれ。立教大学兼任講師。専門は哲学（特にアンリ・ベルクソンの研究）。主な業績に『アンリ・ベルクソンの神秘主義』（論創社、2022年）、共著『ベルクソン思想の現在』（書肆侃侃房、2022年）、ベルクソン『笑い』（共訳、ちくま学芸文庫、2016年）がある。

Project Bergson in Japan
<https://matterandmemory.jimdofree.com/>